2019
事業報告書 ANNUAL REPORT
公益財団法人 北九州産業学術推進機構

FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

はじめに

公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界の連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動しています。

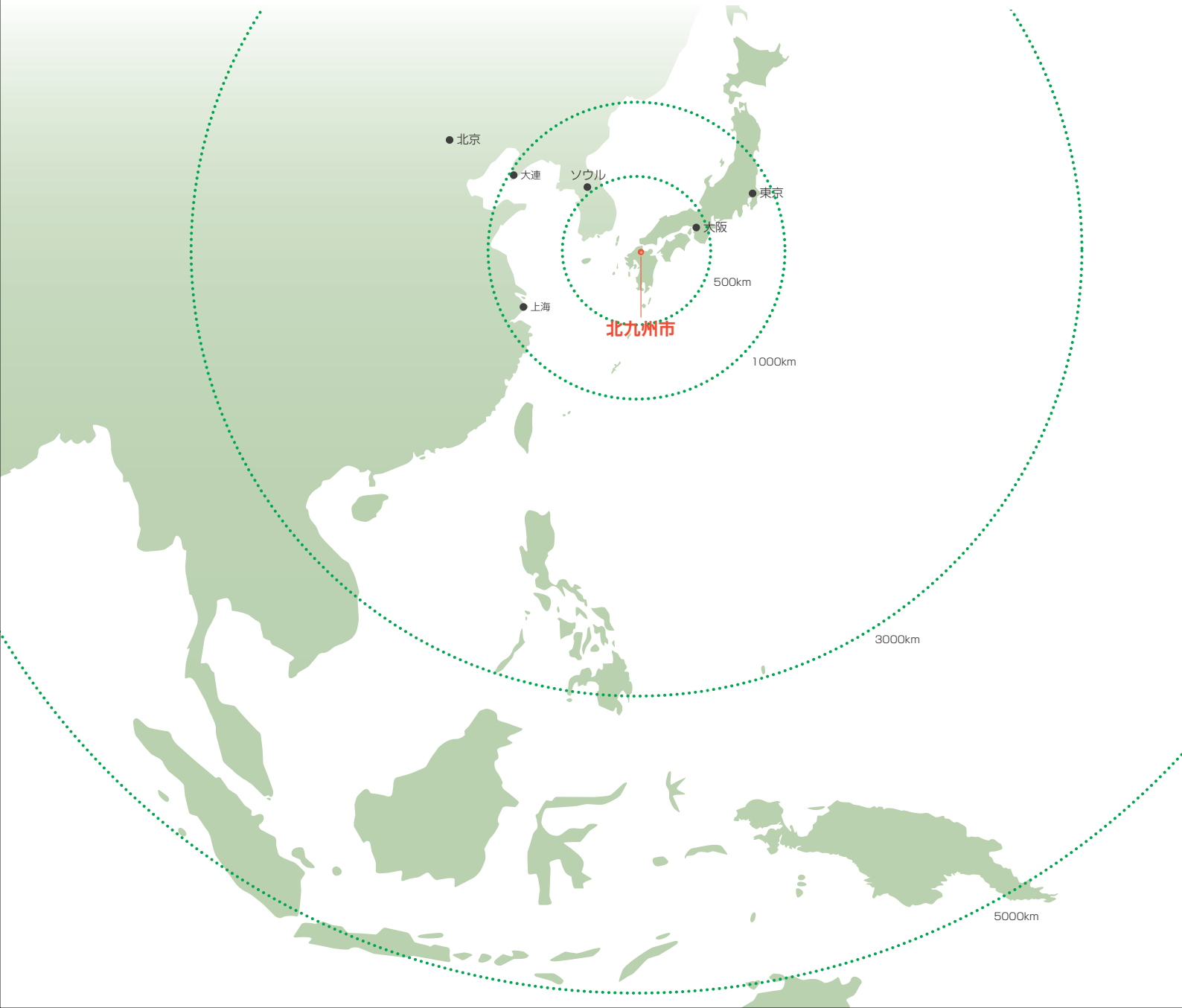
現在、北九州学術研究都市には、北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科、九州工業大学大学院生命体工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科の1学部4大学院、その他に9の研究機関や、46の企業等が集積しています。

開設時には約300人だった学生数は、現在約2,500人となり、そのうち留学生は800人を超え、まさにアジアを中心とした各国からの頭脳が集まるキャンパスとなりました。

こうした中、FAISは公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センターとの合併による相乗効果を発揮し、ロボットやIoT（モノのインターネット）の活用等による地域企業の生産性向上に向けた様々な取り組みを行ってまいりました。

また、これまでの産学官連携による研究開発や学術研究への支援に加え、第５期中期計画（平成30年度～令和4年度）に掲げる、自立できる産業づくりのための各種施策の推進により、地域企業の生産性の向上や産業技術の高度化、活力ある地域企業群の創出・育成に寄与すべく、取り組みを推進してまいりました。

本事業報告書が、公益財団法人北九州産業学術推進機構の取り組みをご理解いただくための参考となれば幸いです。



目　次

(公財)北九州産業学術推進機構について …… 1

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要 …… 3
学研都市の進出大学、研究機関、
企業および産学連携施設 …… 5
アジアの学術研究拠点の形成 …… 9
地域交流・広報活動・施設の市民開放 …… 11

産学連携等の推進

産学連携の取り組み(全体フロー) …… 13
情報収集・発信、産学交流の促進 …… 13
研究開発支援 …… 16
研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》 …… 19
技術拠点化の推進 …… 19
国家戦略特区の取り組み …… 25

中小企業・ベンチャー企業への総合的支援

中小企業の総合的支援 …… 26

財団運営

評議員および役員名簿 …… 27
決算資料 …… 28

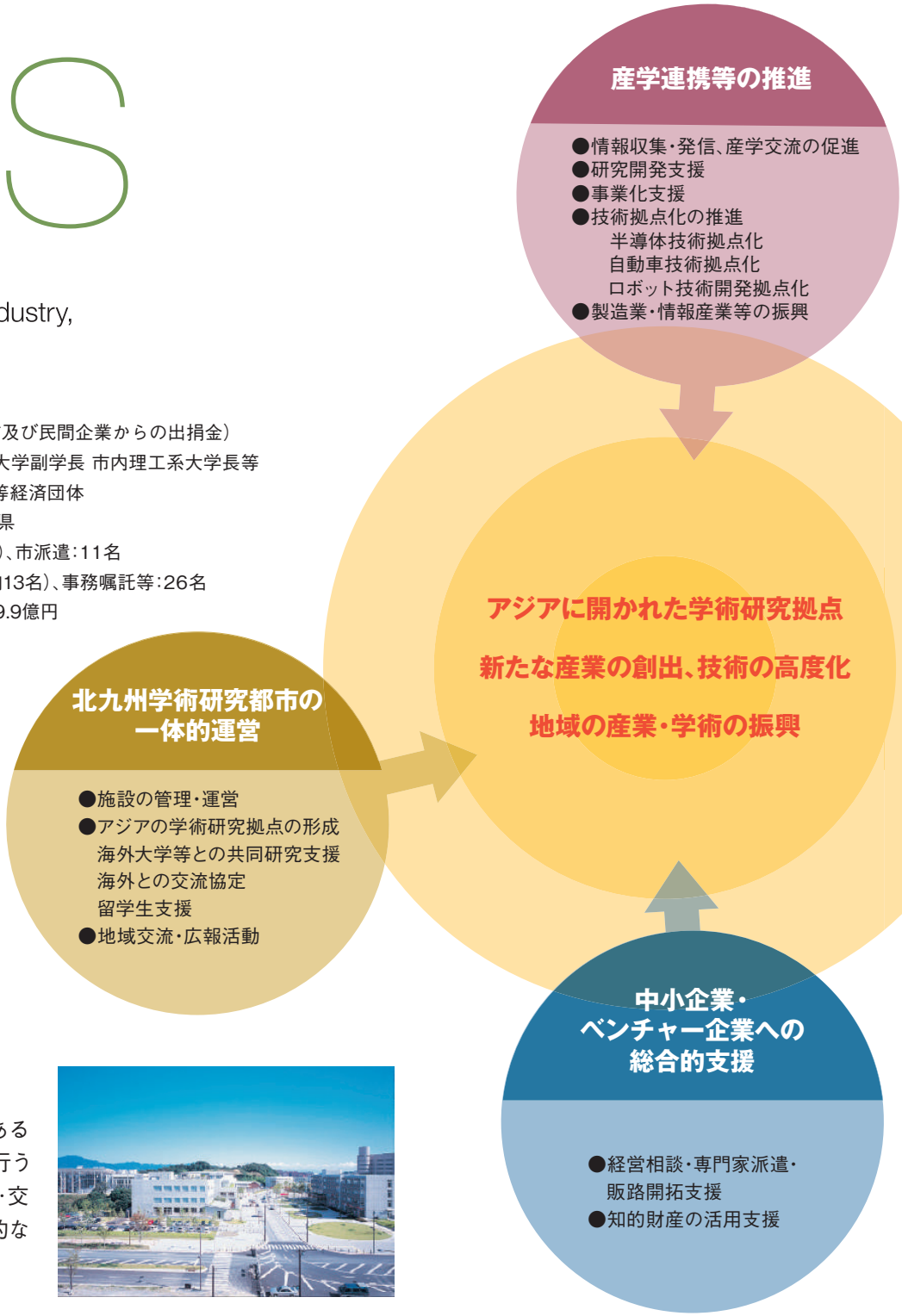
アクセスマップ …… 32

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

フェイス
FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

■理事長／松永　守央
■基本財産／3億8,550万円（北九州市及び民間企業からの出捐金）
■役員等構成／［学界］学研都市参画大学副学長 市内理工系大学長等
［産業界］商工会議所等経済団体
［行政］北九州市、福岡県
■職員数／64名（令和2年5月1日現在）、市派遣：11名
民間出身等：27名（うち出向13名）、事務嘱託等：26名
■令和元年度事業費（支出決算額）／19.9億円



事務局　総務企画部

北九州学術研究都市内にある共同利用施設の管理・運営を行うとともに、進出大学間の連携・交流を促進し、学研都市の一体的な運営を行っています。

中小企業支援センター

戸畑区中原新町2-1（北九州テクノセンター1階）

中小企業の経営革新・創業をワンストップで支援しています。創業や経営の改善・革新を目指す個人や中小企業の取り組みを支援するため、相談窓口、専門家派遣、知的財産の活用の相談等を受付けています。

イノベーションセンター

産学連携部

中小企業を中心とした地域企業の生産性向上や、オープン・イノベーションを通じた新しいものづくりの促進等により、産業の高度化や新産業創出を進めています。

◎産学連携のコーディネート　◎北九州学術研究都市の研究シーズの発信　◎産学交流の場の提供
◎産学共同研究プロジェクトの企画推進、研究成果の事業化支援　◎産学共同研究開発への支援
◎北九州TLOによる技術移転支援

事業推進担当

従来型支援（市内企業・大学が提案・実施するプロジェクトの競争的資金獲得・運営等）に加え、激変するものづくりに対応すべく、「革新的ものづくり」を実現するプロジェクト創出、研究会運営等を通して、市内企業の産業競争力を強化支援します。

◎「革新的ものづくり」実現に向けた支援活動　◎研究開発支援　◎事業化支援

自動車エレクトロニクスグループ

自動車産業の拠点化を推進するために、産学官連携による人材育成・地場企業支援・研究開発支援を行っています。学研都市3大学が運営する連携大学院の教育プログラムの支援、アドバイザーを地場企業に派遣し、教育・生産性向上等の支援、また、企業技術者と大学研究者のコーディネートによる研究会活動をベースに共同研究開発を促進するとともに、令和元年度からは、半導体・エレクトロニクス分野も取り込み、同産業の振興のため、市内関連企業を支援しています。

◎人材育成　◎地場企業支援　◎研究開発支援

▲クルマの未来館ひびきの

自動車工学「エンジン分解・組立実演」の様子
（協力：日産自動車九州㈱）

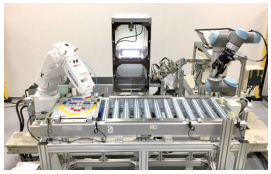
情報産業振興グループ

情報通信産業の集積や新ビジネス創出のノウハウなどを活かしながら、北九州e-PORT構想2.0フェーズⅡとして、①新ビジネスの創出、②地域産業の高度化、③情報産業の振興を図ります。

◎新規プロジェクト創出・事業化支援　◎地域産業の成長支援　◎生産性向上支援　◎高度ICT人材育成

ロボット技術センター

北九州地域のロボット産業振興を目的とし、北九州ロボットフォーラムの運営をしています。ロボット技術の調査、開発から実証までのコーディネートや学研都市内の大学とロボット関連企業との共同研究開発を通して、ロボットの技術開発および実証の拠点化を進めています。また、市内企業へのロボット普及を推進するための導入支援事業や人材育成活動を実施しています。


▲センター保有設備例

◎ロボット技術の調査、開発
◎実証化・事業化のコーディネート
◎人材育成　◎中小企業へのロボット導入支援

国家戦略特区介護担当

ロボット技術等による介護従事者の負担軽減と介護の質の向上を目的として、介護ロボット等の実証を行っています。また、「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」を運営し、実証・作業分析により得られた情報や介護現場の声を踏まえた介護ロボット等の開発・改良を支援しています。実証に必要な安全性検証や倫理審査にかかるサポート、実証フィールドの紹介、開発費補助等も行っています。

▲移乗アシスト装置
（株式会社安川電機）

◎北九州市介護ロボット開発コンソーシアム運営
◎介護ロボット等の実証
◎介護施設における作業観察・分析
◎介護ロボット等の開発・改良支援

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要

北九州学術研究都市とは

北九州学術研究都市は、「アジアに開かれた学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指し、理工系の国・公・私立大学や研究機関が同一のキャンパスに集積するという独自の試みとして、平成13年4月にオープンしました。現在、進出した大学が北九州学術研究都市の理念を共有して、先端的な科学技術、特に「環境技術」と「情報技術」を中心に活発な教育研究活動を展開しています。

大学等の『知』を活用した
地域の産業・学術の振興

アジアに開かれた学術研究拠点
新たな産業の創出・技術の高度化

新たな技術と
豊かな生活を
創り出す
アジアの
先端産業都市
の実現

（北九州市新成長戦略の目標）

北九州学術研究都市の特色

理工系の大学・研究機関、研究開発型企業等を同一のキャンパスに集積

◎国・公・私立大学（1学部4大学院）
北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科
九州工業大学大学院生命体工学研究科
早稲田大学大学院情報生産システム研究科
福岡大学大学院工学研究科
◎研究機関（9機関）
◎研究開発型企業等（46社）

（令和2年7月1日現在）

研究者・教員・学生相互の交流と連携

◎進出大学による共同研究、教員等の交流
◎単位互換の実施
◎進出大学による連携大学院の運営

進出大学の教育・研究理念の共通化

◎先端的な科学技術分野での教育・研究の展開
◎産学連携の促進
◎起業家精神の育成
◎アジアの学術研究拠点の形成

キャンパスの一体的な運営、施設の共同利用

◎学研都市進出大学の代表者で構成する「キャンパス運営委員会」による共同事業の企画・立案
◎図書室、情報処理施設、利便施設の共同利用

北九州学術研究都市整備事業

◎整備の基本方針

北九州学術研究都市では、周辺の自然環境や都市環境を活かしながら、先端技術に関する教育・研究機関の集積と良好な住宅地の供給を同時に行う「複合的な街づくり」を進めています。

◎開発地域／若松区西部・八幡西区北西部

◎開発総面積／約335ha

◎計画人口／12,000人

◎整備スケジュール

第1期事業（約121ha）

平成7年度～平成18年度

事業主体:（独）都市再生機構

第2期事業（約136ha）

平成14年度～平成30年度

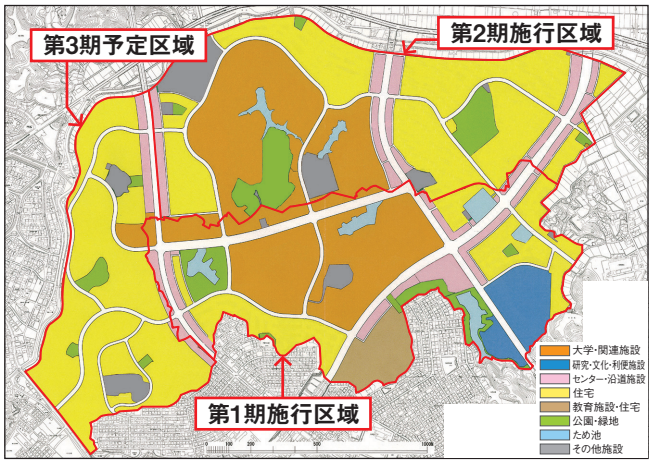
事業主体:北九州市

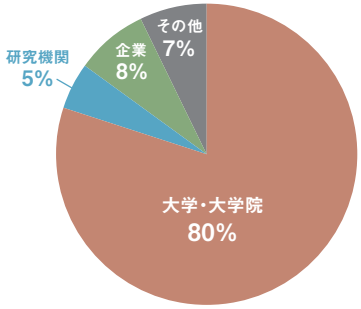
第3期事業（約68ha）

未定

河川事業（約10ha）

【土地利用計画（案）概略図】





北九州学術研究都市の昼間人口

（令和2年5月1日現在）

約3,600名

学生		2,481名（うち留学生815名）
教員	※専任教員のみ	175名（うち企業出身者33名）
研究員		206名（うち外国人研究員72名）

北九州学術研究都市整備のあゆみ

平成元年（1989年）		「北九州学術研究都市基本構想」策定
平成8年（1996年）	2月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」(第1期事業)着手
平成12年（2000年）	4月	「九州工業大学大学院生命体工学研究科」開設
平成13年（2001年）	**4月**	**「北九州学術研究都市」オープン**
		「北九州市立大学国際環境工学部」開設
平成14年（2002年）	1月	「共同研究開発センター（産学連携センター2号館）」開設
	4月	「福岡大学大学院工学研究科」開設
		「北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業」（第2期事業）着手
	5月	「情報技術高度化センター（産学連携センター3号館）」開設
平成15年（2003年）	4月	「北九州市立大学大学院国際環境工学研究科」開設
		「早稲田大学大学院情報生産システム研究科」開設
平成17年（2005年）	4月	「事業化支援センター（産学連携センター4号館）」開設
平成18年（2006年）	6月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」（第1期事業）完了
平成20年（2008年）	7月	「技術開発交流センター（産学連携センター5号館）」開設
平成21年（2009年）	4月	「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」開設
平成23年（2011年）		北九州学術研究都市　10周年
平成25年（2013年）	4月	「北九州学術研究都市連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース」開設
	10月	「産業用ロボット導入支援センター」開設
平成29年（2017年）	4月	「北九州市立ひびきの小学校」開校
平成30年（2018年）	6月	「北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業」（第2期事業）完了

学研都市の進出大学、研究機関、企業および産学連携施設

北九州学術研究都市進出大学・産学連携施設

1 北九州市立大学

国際環境工学部

■学生定員：1,010名
エネルギー循環化学科
機械システム工学科
情報システム工学科
建築デザイン学科
環境生命工学科

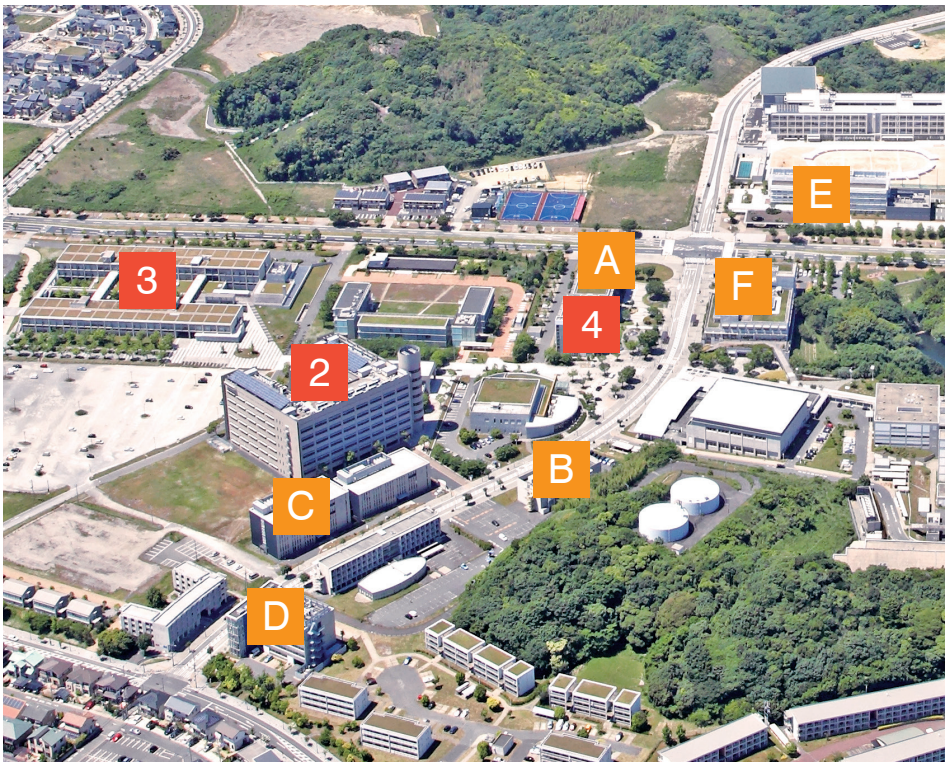
大学院国際環境工学研究科

■学生定員：336名
環境システム専攻
環境工学専攻
情報工学専攻

2 九州工業大学大学院

生命体工学研究科

■学生定員：352名
生体機能応用工学専攻
人間知能システム工学専攻
生命体工学専攻



3 早稲田大学大学院

情報生産システム研究科

■学生定員：460名
情報アーキテクチャ分野
生産システム分野
集積システム分野

4 福岡大学大学院

工学研究科

■学生定員：32名
資源環境・環境工学専攻
エネルギー・環境システム工学専攻

※産学連携センター内

学生数および教員数

（令和2年5月1日現在）

大学	学部	修士	博士	研究生	特別研究学生	学生数計	教員数
北九州市立大学 国際環境工学部	1,095 (42)	ー ー	ー ー	3 (3)	0 (0)	1,098 (45)	86
北九州市立大学 国際環境工学研究科	ー ー	313 (69)	121 (106)	1 (1)	0 (0)	435 (176)	ー
九州工業大学大学院 生命体工学研究科	ー ー	264 (34)	145 (67)	1 (1)	2 (2)	412 (104)	47
早稲田大学大学院 情報生産システム研究科	ー ー	447 (416)	83 (68)	3 (3)	1 (1)	534 (488)	40
福岡大学大学院 工学研究科	ー ー	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2
合計	1,095 (42)	1,026 (521)	349 (241)	8 (8)	3 (3)	2,481 (815)	175

（）内は留学生数

A 産学連携センター

産学連携センター 1号館

産・学・官が手を組んで研究を進める中核施設

「公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター」などの研究機関、最先端の研究を行う企業、「福岡大学大学院工学研究科」が入居しています。また、100人程度まで対応できる研修室や会議室なども提供しています。

- 貸研究室（31室、オフィス系）
- 研修室、会議室（中・小）、特別会議室、特別応接室

F 学術情報センター

図書室 情報処理施設

情報を集積・発信するマルチメディアステーション

学術情報の収集提供（図書室）の機能、情報処理教育施設の機能を持つほか、キャンパス内に整備された大容量ネットワークを利用したさまざまな情報通信サービスを提供しています。

貸研究室賃料

◎2,000円／㎡・月（共益費別 500円／㎡・月）
（例：研究室50㎡の場合およそ150万円／年 光熱水費等別）

B 共同研究開発センター

産学連携センター 2号館

半導体微細加工技術の研究開発を支援する施設

企業や大学などが半導体製造関連分野の研究開発などを行う施設です。ICやMEMSの試作を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。IC試作体験実習（CMOSプロセス）の受け入れも可能です。

- 貸研究室（7室、オフィス系）
- 共同利用のIC・MEMS向け微細加工装置群を設置
  （イオン注入装置、電子ビーム描画装置、両面露光装置、高速熱処理装置（RTA）、ダイシングソー、ボンディング装置等）

C 情報技術高度化センター

産学連携センター 3号館

ネットワークや半導体設計に関する研究開発を行う施設

企業や大学などが高度な情報通信技術や半導体設計技術の研究開発などを行う施設です。コンテンツ制作や半導体設計を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。

- 貸研究室（33室、オフィス系・小規模研究室）
- 半導体設計を行う研究開発機器等を設置

D 事業化支援センター

産学連携センター 4号館

大学発ベンチャー等の研究開発や事業化を支援する施設

オフィス系研究室のほか、機械系と化学系の研究室や小規模ブース単位で使用できる共同研究室を提供しています。

- 貸研究室（36室、オフィス系・機械系・化学系）
- 会議室（中・小）　●共同研究室（10ブース）
- シェアオフィス

E 技術開発交流センター

産学連携センター 5号館

カーエレクトロニクス、ロボット分野等での新たな技術開発を支援する施設

北九州学術研究都市でのこれまでの成果を活用し、カーエレクトロニクス、ロボット分野での技術開発を支援する施設です。また、学術研究を目的に訪れる方のための宿泊室も提供しています。

- 貸研究室（48室、オフィス系・機械系・化学系）
- 宿泊室（9室、シングル8室・ツイン1室）　●会議室（中・小）　●交流室（2室）

※FAISは、北九州市から指定管理者としての指定を受け、産学連携施設の効果的・効率的な管理・運営を行っています。

産学連携施設が充実する北九州学術研究都市には、大学だけではなく研究機関および半導体設計関連企業を中心とした研究開発型企業の進出も進んでいます。また、北九州学術研究都市の大学シーズを活用した起業も活発で、学研都市発ベンチャー企業も12社入居しています。

進出研究機関

令和２年7 月 1 日現在

	研究機関等の名称	入居場所	研究内容
1	北九州市立大学 環境技術研究所	北九州市立大学	地球環境の変化と地域社会の要請に応えるため、環境、エネルギー、バイオマテリアル、情報、ロボット技術等の分野の研究と技術開発を戦略的に推進
2	九州工業大学 次世代パワーエレクトロニクス 研究センター	九州工業大学 および 共同研究開発センター	省エネルギーの推進、電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等、低炭素社会の実現に貢献するパワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究開発
3	九州工業大学 社会ロボット具現化センター	九州工業大学	○ 極限環境に対応可能な特殊環境ロボット群の開発・実用化 ○ 医療・介護ロボットの開発・実用化 ○ 工場内自動化対応技術の開発・実用化 ○ 信頼できるロボットの実用化を支える品質保証を可能とするオープンソフトウェアの開発
4	早稲田大学 情報生産システム研究センター	早稲田大学 情報生産システム 研究センター	自動車エレクトロニクスおよび LSI 分野における国際的水準の高度な研究、人材育成
5	福岡大学 産学官連携センター 北九州産学連携推進室	産学連携センター	環境産業に関する企業のニーズ、自治体の政策およびシーズをマッチングさせ、産学官連携による環境産業振興を展開
6	一般社団法人　HiBD 研究所	産学連携センター および 事業化支援センター	再生可能資源、炭酸ガスを原料とする液体燃料製造の研究開発
7	一般財団法人 ファジィシステム研究所	共同研究開発センター および 技術開発交流センター	ファジィ理論を応用した情報処理システムに関する試験研究
8	公益財団法人 福岡県リサイクル総合研究 事業化センター	産学連携センター	資源循環型社会の構築に向けた、リサイクル技術の開発や社会システムの確立に取り組む産学官民による研究開発および事業化を支援
9	現代美術センターCCA 北九州事業所	情報技術高度化 センター	マルチメディアコンテンツの創造に向けた情報通信による表現技術の研究・開発、大学と連携した人材育成

進出企業

令和２年7 月 1 日現在

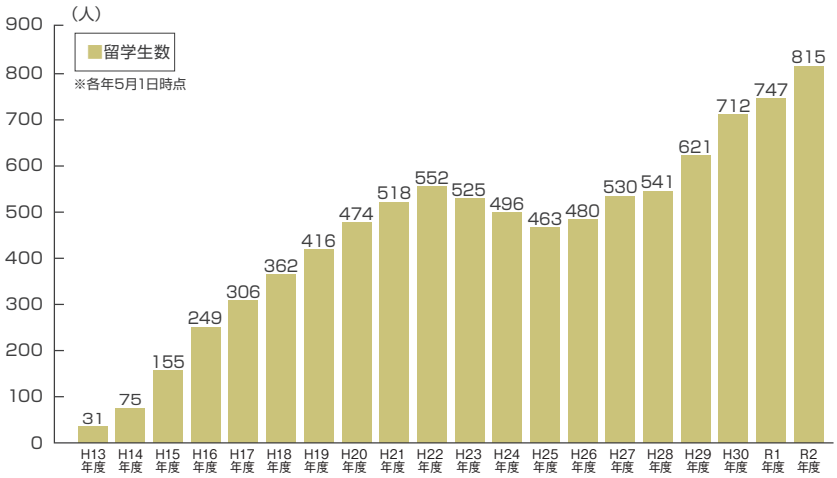
	入居場所		企業・研究機関等名	事業内容
1	産学連携センター		㈱インフォグラム	システム開発、パソコン教育サービス、インターネットサービスおよび 前各号に付帯関連する一切の業務
2			石田特許事務所	特許、及び実用新案・意匠・商標登録の出願手続の代理、特許出願等に関するコンサルティング
3			KOA㈱	電子部品、センサ素子、センサモジュールに関する情報収集、情報交換ならびに産学共同開発
4			プラントメイクRISE㈱	焼却炉設備におけるコーティング剤開発、3Dスキャナーによる構造計算ソフトの開発
5			㈱コイシ	建設現場における技術開発
6			AIM QEL WIZBL JAPAN㈱	ブロックチェーン技術及びその技術を使用した情報システムの開発・研究
7			(公社)無人機研究開発機構	無人機全般について調査、研究および技術向上について知識の交換、情報の提供等を行う場となることにより、無人機に関する研究の進歩普及
8	共同研究開発センター		㈱セキュリティ情報研究所	システム開発、システム保守(24時間365日)
9			㈲K2R	触媒反応を利用したラジカル種含有の水の生成装置の研究開発
10	情報技術高度化センター		㈱Windy	病院、薬局で使用するソフト開発、自動車工場での作業分析ソフトの開発
11			三島光産㈱	薬剤自動除包分配機および調剤薬局関連機器の開発、製造
12			㈲OHG研究所	臨床検査および臨床検査技術の研究開発、生体試料分析
13			㈱明菱	機能性樹脂材料に関する九州工業大学との共同研究 産業廃棄物である金属スラッジを利用したフィラーの研究
14		●	RoboPlusひびきの㈱	メカトロニクス設計・製造及び販売、コンサルタント業
15			㈱ITS	半導体集積回路等電子部品の研究開発
16	事業化支援センター	●	㈲ビー	画像処理システムおよびソフトウェアの研究開発
17		●	実研開発㈲	臨床工学教育機材、光伝送生体信号測定装置の開発・販売
18		●	㈱ブラテック	Webシステム開発、アカデミックソリューション事業
19			ひびきの会計事務所	山口公認会計士・税理士事務所（公認会計士業務）
20			㈱ＡＫシステム	半導体製造装置製作技術等の新産業分野（医療・福祉等分野）への応用研究開発
21			マレリ㈱	磁束センサーとアナログ回路を適用した電気評価技術に関する研究
22		●	アーティックス㈱	IoT、人工知能、ブロックチェーンなどに関する研究開発
23		●	㈱石炭灰総合研究所	改質フライアッシュコンクリートの製造システムに関する研究開発
24			㈱豊光社	分子接着技術を用いた曲面配線技術および高輝度・高信頼性LED照明の研究開発
25			㈱TuSimple JAPAN	車両の自動運転技術の研究開発、設計及び販売
26		●	ミライワークシステム合同会社	労働作業負担ルール開発及び関連事業
27			(一社)進路指導・キャリア教育支援機構	中等教育における進路指導・キャリア教育・就職指導の教育
28			ヒビト・デザイン	子どもの絵や作品をデータ化し、デザインとの組み合わせによって保存することで、子どもの将来に及ぼす影響とその効果の研究
29			環境エネルギー㈱	バイオジェット燃料の開発・実用化、バイオディーゼル燃料の高品質化
30		●	ひびきの電子㈱	電界共振型生体センシング及びセンシングデータ解析システムの開発
31		●	㈱環境フォトニクス	植物育成用LED光源等の研究・開発・販売
32			MNE㈱	金属表面処理（コーティング・めっき)電子部品・半導体部品、新皮膜開発
33			合同会社キューカル	組み込みソフトウェアの研究開発
34			㈱ワークス	精密プラスチック射出成型技術の開発
35		●	㈱ロボサイエンス	水中ロボット及び関連製品の研究開発
36			㈱アポロジャパン	スクリーンコードおよび自動運転の基盤技術開発
37	技術開発交流センター		㈱シキノハイテック	半導体設備の設計/製作/調整、LSI回路設計/レイアウト等
38			吉川工業㈱	RF-IDに関する研究開発事業
39			㈱Ｃ＆Ｇシステムズ	金型設計・加工用CAD/CAMソフトウェア開発
40			シャボン玉石けん㈱	無添加の化粧石けん、家庭用洗浄剤、消火剤などの製造販売
41			㈱トリコ	電気部品の開発・修理
42		●	㈱ＦＩＬＴＯＭ	プラセンタエキス（豚胎盤液）を使った化粧品の開発・製造・販売
43			アイシン精機㈱	画像認識・空間認識、車両制御等の要素技術開発
44			京都電子工業㈱	新規センサー製作の技術要素確立のための試作・評価
45		●	㈱セキュアサイクル	行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発およびセキュリティ事業
46			㈱安川電機	ロボットの試験・人の動作の模倣

※●印は学研発ベンチャー企業（12 社）

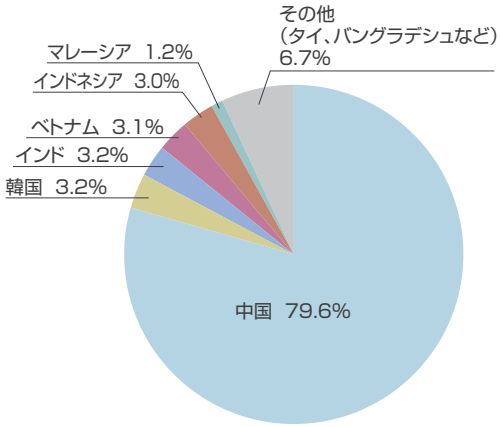
アジアの学術研究拠点の形成

北九州学術研究都市の留学生

【留学生数の推移】



【出身国内訳(29か国)】



留学生の支援と優秀なグローバル人材の育成

FAIS留学生就職支援プログラム事業の運営

北九州学術研究都市内の3大学(北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学)の修士留学生を対象に、日本企業への就職を支援する「FAIS留学生就職支援プログラム」事業を実施しました。

受講生	27名(北九州市立大学2名、九州工業大学2名、早稲田大学23名)
プログラム	・就職支援講座(就活セミナー、模擬面接セミナー、就活カウンセリング、身だしなみ・マナー講座 等)
	・就活日本語講座
	・企業見学

昨年の就職支援プログラムの様子

語学教育センターの運営

留学生や北九州学術研究都市に立地する企業・研究機関の職員を対象に、日本語の講座を開講する語学教育センターを運営しました。

●日本語クラス／春期　初級～上級(ビジネス日本語)
秋期　初級、JLPT受験対策クラスN2.N3
(春期、秋期各8クラス)

●令和元年度受講者／227名

日本語講座

留学生交流事業への助成

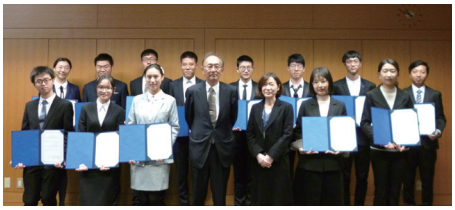
学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人等が運営する事業に対して助成を行いました。

留学生への宿舎の提供・奨学金の給付

総戸数200戸の留学生宿舎を提供するとともに、北九州学術研究都市の大学院に在籍する留学生を対象に、「北九州学術研究都市奨学金」（1人年間60万円）を給付しました。

●令和元年度受給者数／20人

北九州学術研究都市奨学金（春期）

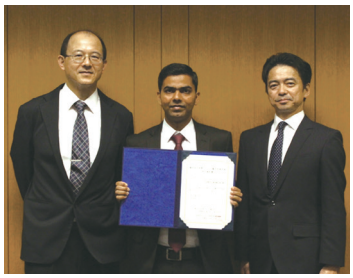


北九州学術研究都市奨学金（秋期）

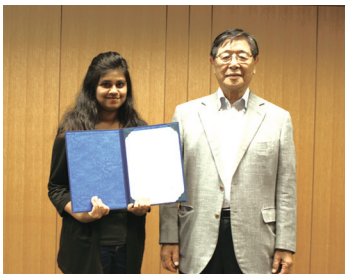
冠奨学金の給付

高度人材として国内外で活躍が期待される学研都市の留学生と地域企業等のネットワーク構築支援を目的として創設され、株式会社牧野フライス製作所、株式会社ホンダ・リサーチ・インスティチュート・ジャパンと個人から寄付金（総額614万円）をいただき奨学金を給付しました。

●令和元年度受給者数／6人



株式会社牧野フライス製作所奨学金



国際高度人材育成奨学金

海外との交流促進

各大学における海外大学との交流協定（令和2年5月現在）

【北九州市立大学国際環境工学部・同研究科・環境技術研究所（37機関）】

インド：インド工科大学ボンベイ校、フランス：パリ第7大学、中国：大連理工大学、ベトナム：ベトナム国家大学ハノイ校
タイ：タマサート大学　他32機関

【九州工業大学大学院生命体工学研究科（21機関）】

韓国：世宗大学校ソフトウェア融合学部、フランス：ボルドー工科大学ENSEIRB-MATMECA大学院
トルコ：コンヤ工業大学工学自然科学部　他18機関

【早稲田大学大学院情報生産システム研究科（48機関）】

中国：北京大学、台湾：国立成功大学、韓国：全南大学校、タイ：タマサート大学
フィリピン：アテネオ・デ・マニラ大学　他43機関

海外の研究機関等との交流協定

FAISは、台湾のサイエンスパークや中国の上海交通大学および韓国の韓国科学技術院（KAIST）・釜山大学校と交流協定を締結しています。

●平成16年／台湾　新竹サイエンスパーク、南部サイエンスパークとの交流協定締結
●平成19年／中国　上海交通大学との交流協定締結
●平成21年／台湾　中部サイエンスパークとの交流協定締結
●平成27年／韓国　韓国科学技術院（KAIST）、釜山大学校との交流協定締結

地域交流・広報活動・施設の市民開放

地域交流イベントの開催

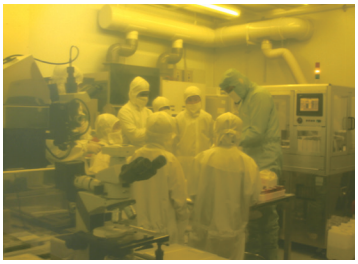
第17回 北九州学術研究都市ひびきの祭

地元自治会など地域の方々との協同による「ひびきの祭」を開催し、多くの方へ科学やものづくりへの興味を喚起する場を提供しました。

日程／令和元年11月10日（日）
会場／北九州学術研究都市
内容／【FAIS企画】
- ワク！ワク！フューチャー科学館
- 図書・雑誌リサイクルフェア
- ICプロセス体験道場inひびきの
  ＜クリーンルームの作業体験＞
- プログラミング体験会

【地域団体等企画】
- ひびきの秋祭り2019
  ＜屋外ミニステージ、地域出店など＞
- あんぜん教室
  ＜地震体験車、消防車、パトカー、救急車＞
- ひびきの・みつさだ 気ままに音楽会 2019
  ＜園児演目、合唱、中学生吹奏楽、市民合唱等＞

来場者数／約10,000人



北九州学術研究都市サイエンスカフェ

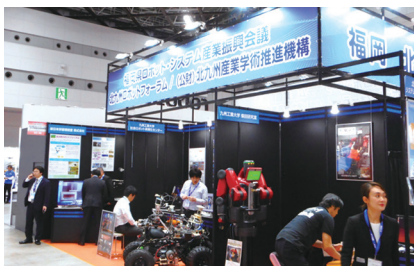
研究者が市民の輪に入って科学の話題を提供、参加者がともに考えながら、科学技術に対する理解と関心を高めることを目的に開催しました。

日程／令和元年11月10日（日）　**テーマ／ハイパースローモーション～先端テクノロジーを使ってヒトの能力を調べてみよう～**
講師：九州工業大学 大学院生命体工学研究科　川原 知洋 准教授
会場：北九州学術研究都市 産学連携センター1階 展示ルーム

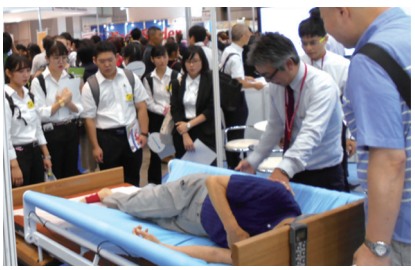
広報活動

展示会への出展

下記の展示会をはじめ、14件の展示会に出展し、北九州学術研究都市の研究成果等を発信しました。



2019国際ロボット展

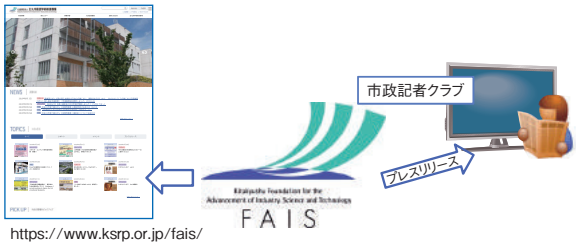

第46回国際福祉機器展　H.C.R.2019

デジタルイノベーション九州2019

積極的な情報発信

北九州学術研究都市の取り組みや成果を、さまざまな機会や手法を活用して、国内外への情報発信を行っています。

令和元年度報道件数／163件
（内訳：テレビ・ラジオ等17件、雑誌20件、新聞126件）



https://www.ksrp.or.jp/fais/

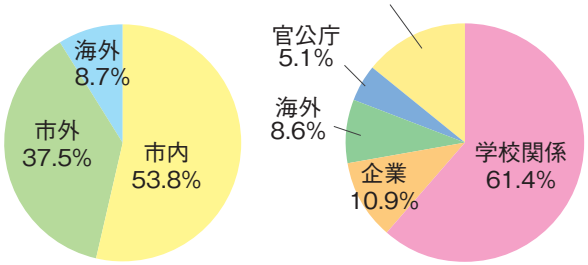
ホームページ　広報紙（事業報告書）
メールマガジン　facebook

国内外研究者等の受け入れ

北九州学術研究都市に来訪した多数の国内外研究者等に対し、学術研究都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介しています。

令和元年度視察者数／1,223人
＊海外／90人（14カ国・地域）　＊国内／1,133人

【視察者内訳（人数）】



市民も利用できる共同利用施設の運営

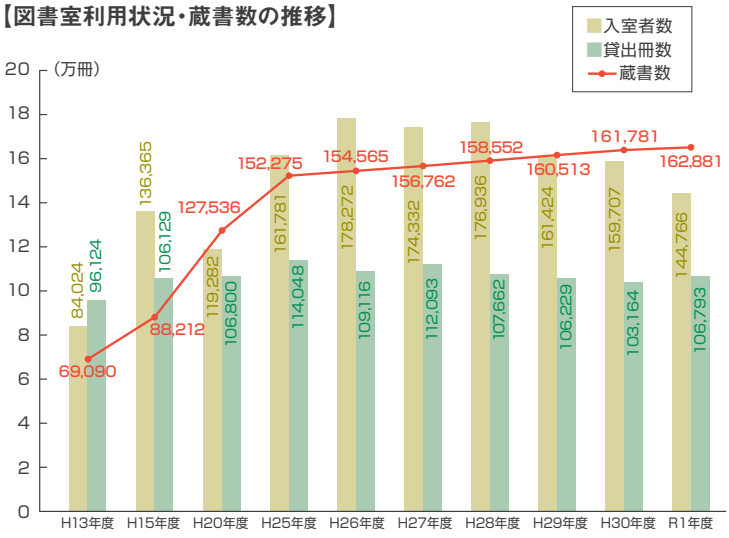
学術情報施設

市立図書館とオンラインで結ばれ、他の市立図書館と同様に利用できる一般図書室と、北九州学術研究都市に進出している大学の専門図書を集中配架する専門図書室を運営しています。

また、パソコンを配備した講義室や、遠隔地とリアルタイムでテレビ会議ができる遠隔講義室等を備えています。

学術情報センター

【図書室利用状況・蔵書数の推移】



コンベンション・体育施設

会議場／大型映像装置や同時通訳設備を備えた460席の会議用ホールで、講演会やセミナー、学会や国際会議等に利用できます。懇親会や展示会等に活用できるイベントホールを併設しています。

会議室／数人から200人規模まで、ニーズに応じた様々な形態の会議や研修、地域活動等に利用できます。

体育施設／大学の授業やサークル活動の時間以外は、地域や有志クラブ等の活動に利用できます。（体育館・運動場・テニスコート）

会議場（外観）

会議場（メインホール）

会議場（イベントホール）

会議室

研修室

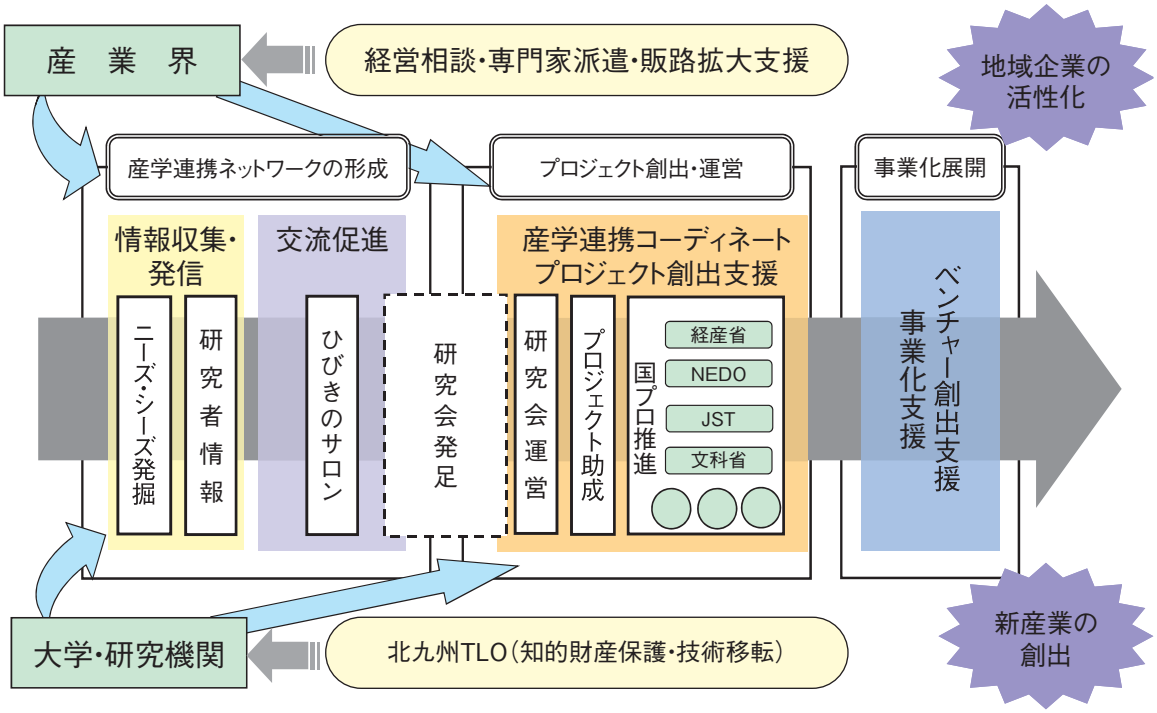
体育館

運動場

テニスコート

産学連携の推進

産学連携の取り組み（全体フロー）



情報収集・発信、産学交流の促進

学研都市内研究者の情報提供

●FAISのHP上に「研究者情報データベース」を構築
　―― 技術キーワードや所属、研究者名等で検索可能

●データベースの情報を基に「北九州学術研究都市の研究者情報」（ダイジェスト版）を作成

毎年、市内外の企業等に配布
【令和元年度配布数】◎ダイジェスト版　　約2,000部

研究者情報データベース
TOP画面

研究者情報冊子等

メールマガジンによる情報発信

●「産学連携センターNews」を配信中（平成16年9月～）
　セミナー情報や産学連携に関するトピックを随時掲載

◎配信先　　約7,200件
◎配信件数　　877通配信（令和2年4月1日現在）
◎毎週月曜日配信

常設の産学交流の場

産学交流サロン（ひびきのサロン）の開催

北九州学術研究都市から新たな産学連携の動きが次々と生まれてくることを目指し、産学官から複数の研究者等が特定の技術テーマについて自由に意見を交換する交流の場「産学交流サロン」を開催しています。平成14年度のスタートから令和元年度までに183回開催し、のべ17,723人の方が参加しています。

【令和元年度実績】

日　時	テーマ	講　師	参加人数
第177回 8/6	「IoT/AI 最新テクノロジーが介護現場の未来を拓く」 ※台風接近により開催中止	京都大学　今中　雄一　氏 パナソニック株式会社　山岡　勝　氏 エイチタス株式会社　原　亮　氏	
第178回 10/4	「産業界で活躍する技術系人材に求められるものとは」 ～第6回カーロボAI連携大学院交流会～	三菱自動車工業株式会社　瀬戸口聖也　氏 九州工業大学　森江　隆　氏 九州工業大学　前田　優輔　氏 (公財)北九州産業学術推進機構　富村　道徳　氏	56
第179回 11/19	スパースモデリング・セミナー	九州工業大学　石川　眞澄　氏 統計数理研究所　池田　思朗　氏 北九州市立大学　永原　正章　氏 西日本工業大学　亀井　圭史　氏 北九州市立大学　池田　卓矢　氏	60
第180回 11/21,22	合同企画　第180回産学交流サロン「ひびきのサロン」& 第13回IPS海外連携シンポジウム（ISIPS2019） ①キーノートスピーチ　②招待講演1　③招待講演2	早稲田大学　清水　孝一　氏 上海交通大学　Dr. Jun, WU　氏 国立台湾交通大学　Dr.CHEN Po-Hung　氏	157
第181回 11/26	経済産業省サプライヤー応援隊事業 「専門技術者育成カリキュラム」	日産自動車㈱　伊藤　知広　氏	40
第182回 11/27	先進的な技術とコミュニティによる認知症の方々との 共生を目指して	西野病院　西野　憲史　氏 NPOエコロジーオンライン　上岡　裕　氏 九州大学　井手　友美　氏 地域イノベーションエコシステム形成プログラム 相馬　功　氏	54
第183回 12/13	資源・エネルギーの利用と変換のための先端技術	九州大学　高垣　敦　氏 福岡大学　久保田　純　氏 九州電力株式会社　松尾　菊子　氏	45
第184回 1/27	「MEMS技術が拓く医療・ヘルスケアの未来」	東北大学　芳賀　洋一　氏	57
第185回 3/11	5Gが切り拓く北九州市の未来 ※新型コロナウイルス感染症拡大により中止	総務省総合通信基盤局　荻原　直彦　氏 ㈱NTTドコモ　奥島　啓介　氏 KDDI㈱　黒澤　葉子　氏 ソフトバンク㈱　小池　勝矢　氏	
第186回 3/27	マイクロ・ナノ加工技術を用いた最先端バイオ研究 ※新型コロナウイルス感染症拡大により中止	九州工業大学大学院　久米村百子　氏 北海道大学　繁富(栗林)香織　氏 京都大学高等研究院　亀井謙一郎　氏	

※法人名は、サロン開催時の名称です。

産学連携の推進「北九州学術研究都市フォーラム」

開催趣旨／人口減少・超高齢化社会にあって、社会経済情勢の現状認識を共有するとともに、課題対応への方向性を企業・大学・地域それぞれの立場で考え、「変革」の契機とすることを目的に開催。
テ ー マ／「生産性向上・テクノロジーイノベーション」
実施状況／①日時:令和元年10月30日(水)・31日(木)
②内容:基調講演、研究交流会、セミナー、サイドイベント、学生ハッカソン
③来場者数:延べ1,262人

基調講演

セミナー

セミナー特別講演

研究交流会

産学共同による研究会の企画運営

令和元年度研究会活動

先端的で波及効果が高いと予想される技術分野に関するテーマや、事業化の可能性の高いテーマについて、産学共同による研究会を企画・運営し、研究開発につなげる活動を進めています。

また、研究会の取り組みは、国等プロジェクトの採択につながっています。

令和元年度は「エネルギーマネジメント研究会」など11の研究会を運営しました。

エネルギーマネジメント研究会

令和元年度は、シュタットベルケ先進国を目指す北九州市の今後のビジョンや課題の可視化のため、ドイツへ現地調査を行う等、見識を深めました。

EIPに関する意見交換会

研究開発支援

企業・大学等が実施する研究開発に対する支援

大学等の研究機関、市内企業が実施する研究開発のために補助金を交付し、新技術・新製品の開発を支援しています。

FAISの研究開発に対する支援制度（令和元年度）

◎新成長戦略推進研究開発事業

名　称	概　要	対象者	補助額（補助率）	助成期間
シーズ創出・実用性検証事業	北九州市新成長戦略に定める成長分野に関し、実用化を目指すシーズを見出し、その可能性を検証するための研究開発に対して補助金を交付	市内大学等 (1)若手･チャレンジ枠 (2)一般枠	100万円以内（1/1） ※生産性向上に資するロボット等に関するものは300万円以内	単年度
実用化研究開発事業	北九州市新成長戦略に定める成長分野において、技術の高度化・製品の実用化並びに新産業の創出を目指す研究開発に対して補助金を交付	市内企業等	中小企業 300万円以内(2/3) そ の 他 300万円以内(1/2) ※生産性向上に資するロボット等に関するものは500万円以内	単年度

令和元年度採択実績

【シーズ創出・実用性検証事業】15件

	採択テーマ名	申請大学等
若手・チャレンジ枠	《ロボ》フレームレス型手先カメラによる産業用ロボットの高速画像制御技術の開発	九州工業大学
	《ロボ》把持対象に応じて自動で「柔らかさ」を調整するロボットアームの手先機構の開発･制御	九州工業大学
	《ロボ》事前物体認識を必要としない把持対象適応型ロボットハンドの開発	九州工業大学
	《ロボ》圧力波の到達時間差に基づく触覚センサを備えたインフレータブルロボットの開発	九州工業大学
	ニッケル･アルミニウム粒子を用いたパワエレデバイス向け高耐熱性実装技術の研究	早稲田大学
	3Dプリンターにて造形可能な歯科用新素材の開発と銀歯代替材料への応用	九州歯科大学
	爆轟波を用いた環境性に優れたロケット上段用姿勢制御スラスタの研究	九州工業大学
	生物の多様な「つかまり」の機巧･技能を融合したバイオニックグリッパの開発	九州工業大学
	UV-Cクラス紫外線LED光源と光触媒塗布金属ボールによる排水溝用滅菌/臭気抑制システム開発	北九州市立大学
一般枠	《ロボ》協調ロボットの危険回避のための人間行動の瞬時予測	九州工業大学
	《ロボ》安全･安心ロボットに向けた組込み脳型人工知能の構築	九州工業大学
	免疫クロマトグラフィを応用した多項目検出簡易型歯周病診断法の開発	九州歯科大学
	次世代パワーエレクトロニクス機器の高性能化と高信頼性化を実現する新しい液体冷却システムの構築	北九州市立大学
	ヒ素汚染水連続浄化装置用マグネタイト凝集装置の開発	九州工業大学
	市民クラウド構想と北九州市製造業･観光業へのAI/ML導入に向けたElixir(エリクサー)の基礎研究	北九州市立大学

※《ロボ》:生産性向上に資するロボットや関連装置等に関するもの

【実用化研究開発事業】6件

採択テーマ名	申請企業等
大容量薬剤コーティング型医療用マイクロニードルアレイ製造、穿刺技術の確立と薬剤効果の検証	三島興産㈱
可視光応答型光触媒を活用した自走式紫外線照射機用塗料の開発	㈱ケミカルクリエイト
一般臨床歯科医向けAIを活用したクラウド型口腔粘膜疾患診断支援システムの開発	㈱ブラテック
【継続】視覚障害者や高齢者を含む交通弱者のための道案内システムの開発 ※採択決定後、事業中止（同様のテーマが国の事業に採択されたため）	㈱コンピュータサイエンス研究所
【継続】非加熱生物材料を用いた多様なプラセンタ化粧品の開発と高安全性品質評価法の開発	㈱FILTOM
【継続】自立支援に着目した「杖型立ち座り動作支援機器」の開発	㈱芳野ケアサポート

※【継続】:平成30年度採択の2年目の事業　　※法人名は採択時の名称

FAIS助成制度の主な成果事例（令和元年度採択テーマより）

【研究テーマ】一般臨床歯科医向けAIを活用したクラウド型口腔粘膜疾患診断支援システムの開発
【申請企業】株式会社ブラテック

口腔粘膜疾患には口内炎から口腔がんまで様々な疾患がありますが、一般臨床歯科医ではこれらの疾患の緊急度を判断するのが難しいため、専門医の診断に頼らざるを得ないのが現状です。

本研究は、口腔粘膜疾患に対する知識の少ない一般臨床歯科医でも簡便に日常歯科診療の現場で活用できる業界初のクラウド型口腔粘膜疾患診断支援システムを開発し、専門医頼りの現状を打開するものです。

国等の資金を活用した研究開発プロジェクトの推進

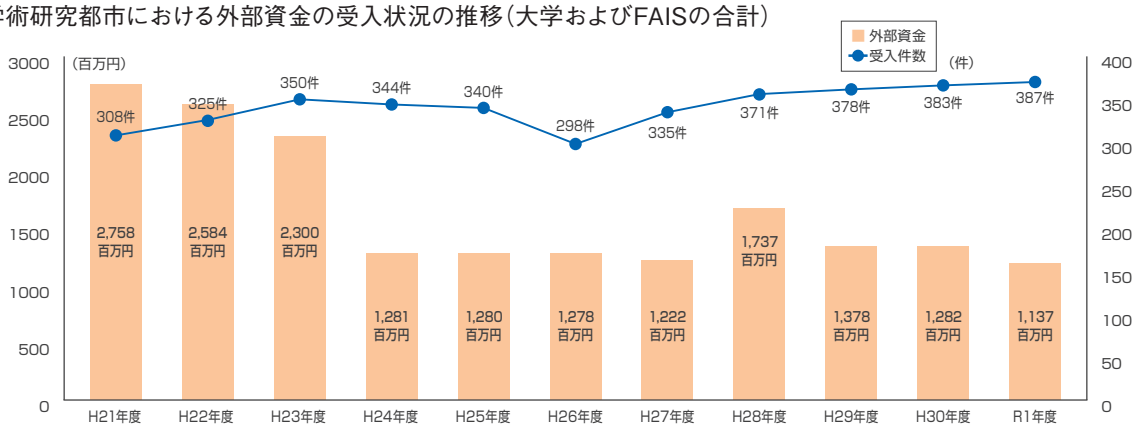
「戦略的基盤技術高度化支援事業（経済産業省）」や「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム（文部科学省）」等、国等の資金を活用した産学連携の研究開発プロジェクトを積極的に実施しています。

令和元年度は、各大学における受託研究等と合わせて387件のプロジェクトに取り組みました。

中でも経済産業省が進める戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）では、3件の新規プロジェクトが採択されました。

外部資金の積極的な獲得

北九州学術研究都市における外部資金の受入状況の推移（大学およびFAISの合計）



近年の主な研究開発プロジェクト

経済産業省	
次世代太陽光発電向け円筒型太陽電池システムの研究開発	R1年度～R3年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億2,635万円
三次元技術を用いた地域社会への貢献を目的とした高度測量技術に関する研究開発	R1年度～R3年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億3,435万円
5G対応高周波用材料（ガラス・セラミック・テフロン等）への分子接合とメッキ技術を融合した高周波対応次世代メッキ技術の開発	R1年度～R3年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億4,306万円

内閣府	
ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発	26年度～30年度
【戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）】	8億4,000万円

ＪＳＴ	
スマート社会創造に向けたソーシャルイノベーション研究開発・実証拠点	27年度～28年度
【世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム】	3億3,500円

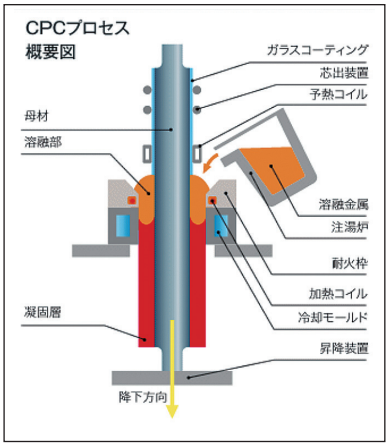
文部科学省	
IoTによるアクティブシニア活躍都市基盤開発事業	28年度～R2年度
【地域イノベーション・エコシステム形成プログラム】	2,150万円
微細加工プラットフォーム	２４年度～R3年度
【ナノテクノロジープラットフォーム事業】	１億円

FAISが支援した研究開発プロジェクトの主な事例

【事 業 名】 長寿命で優れた耐摩耗性・耐肌荒れ性等を有するΦ1000mm以上の圧延大径ロールの開発
【実施企業】 ㈱フジコー（北九州市戸畑区）、九州工業大学（共同研究機関）
【研究期間】 平成29年10月6日～令和2年3月31日の3年間
【事 業 費】 ３年間で約1.5億円（内2/3の約1億円が補助金として助成される）

【狙い】製鉄ライン等の大径圧延用ロール等の表面特性の高度化、高寿命化、メンテコスト削減

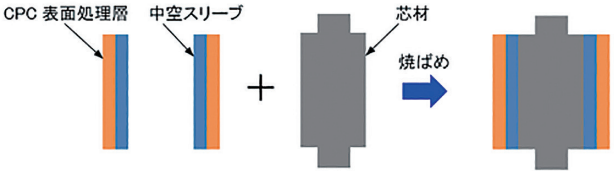
【技術】フジコー保有技術による優れた表面特性を持つCPC管（Φ800mmMax）の拡管技術を開発



ピンチロール

【体制】㈱フジコー、九州工業大学、FAIS（管理機関）、第一高周波工業（アドバイザー）、拓南製鐵（川下企業アドバイザー）

【課題】①CPC法により表面改質した中空2層スリーブ品（Φ800mm程度）の製作
②拡管装置（今回の開発技術）による拡管加工（Φ800⇒1400mmへ）
③拡管した2層スリーブに芯材を焼嵌め固定し、中実ロール完成



【進捗】令和元年度でサポイン事業を終了し、事業化に向け、補完研究を推進中

ロボット・IoT・AI等を活用した生産性向上支援事業 ～スマートものづくり応援隊事業～

1. 指導者養成スクールの開催

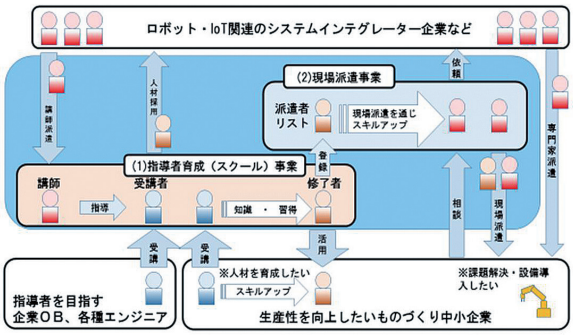
中小企業の生産性向上を支援するため、ロボット、IoT、AIといった新技術の導入をコーディネートする人材育成を目的とするスクールを開講。

実施時期：令和元年8月～令和2年2月（全14講座）
内　　容：生産性向上のための基礎編、IoT編、ロボット編など
受講者数：延べ約250名

2. 中小企業への専門家派遣

中小企業がロボットやIoT導入により生産性向上を目指す際に、知見を有する専門家を派遣。

派遣回数：計63回



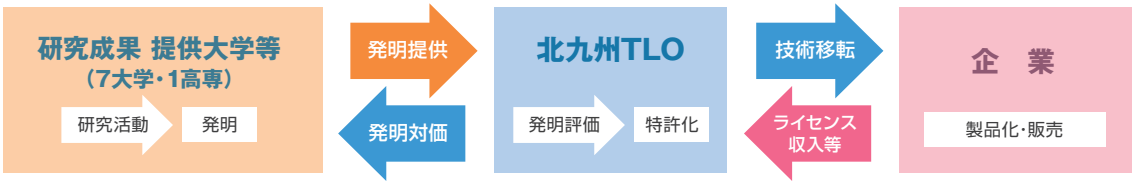
【スクールのカリキュラム（令和元年度）】

	No.	科　目	開 催 日	受講者数
基礎編	1	2019年版ものづくり白書の概要 産業用ロボット導入事例及び人材育成について	8月29日	64名
	2	環境改善の基本と実践～ロボット･IoT･AI等の活用を見据えて～	9月4日、11日	12名
IoT編	1	IoTによる現場革新の全容 IoTと職人技の融合による高付加価値経営の挑戦	9月18日	30名
	2	1万円以下でできるRaspberry Piで始めるIoT 基礎編	9月25日	15名
	3	IoTを活用した改善の進め方	10月2日	17名
	4	工場向けワイヤレスIoT	10月9日	11名
	5	設備稼働状況のデータ取得	10月16日	18名
	6	1万円以下でできるRaspberry Piで始めるIoT 実践編	10月25日	15名
ロボット編	1	産業用ロボット基礎講座	10月29日､11月28日､12月12日	6名
	2	ロボット活用講座	11月7日、1月9日	9名
	3	ロボットビジョン講座	11月14日､12月3日､1月16日	15名
	4	協働ロボット体験講座	11月21日、1月23日	7名
	5	ロボットシミュレータ活用講座	11月26日、1月30日	10名
	6	ロボット･IoT連携体験講座	12月5日、2月6日	9名

研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》

FAISは「北九州TLO（Technology Licensing Organization）」を運営し、地域の大学等の研究者が生み出した研究成果（発明）を特許化し、それらを民間企業へライセンス契約等によって技術移転しています。この技術移転により企業から得られたライセンス収入等の大半を研究者や大学に還元し、新たな研究開発につなげています。北九州TLOの保有技術シーズは、ホームページでも紹介しています。

北九州TLOの仕組み・特許出願等



研究成果提供大学等　**九州工業大学、産業医科大学、北九州市立大学、九州歯科大学、西日本工業大学、九州共立大学、中村学園大学、北九州工業高等専門学校**

これまでに事業化・製品化された事例（一部掲載）

名　称	発明者・研究代表者
水添加型の界面活性剤系組成物（環境に優しい泡消火剤）	北九州市立大学　上江洲　一也 教授
医学実習用解剖台（ホルムアルデヒドの直接曝露防止）	産業医科大学　大和　浩 教授、菊田　彰夫 教授 他
マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置	九州工業大学　鶴田　隆治 教授 他
あらゆる流動物質を測定できる極めてシンプルな曳糸性測定機	九州歯科大学　西原　達次 教授、柿木　保明 教授 他
アスペルギルス属菌及びリゾープス属菌の混合培養系を用いたアミラーゼの生産方法（「高い酵素活性」や「豊富な酸」を持つ新しい麹菌）	北九州市立大学　森田　洋 教授 他

環境に優しい泡消火剤

マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置

減圧乾燥装置（マイクロ波）　生のイチゴ　乾燥後

あらゆる流動物質を測定できる極めてシンプルな曳糸性測定機

技術拠点化の推進

半導体・エレクトロニクス技術拠点化の推進

半導体・エレクトロニクス関連企業支援

半導体設計ツールやＩＣ・ＭＥＭＳ微細加工装置、評価・解析機器を整備し、半導体・エレクトロニクス関連企業に対して、設計から製造、評価・解析までの一貫した設備環境を提供し、北九州市における半導体産業の振興に努めています。

■ＩＣ・ＭＥＭＳ微細加工環境の提供

共同研究開発センターでは、ＩＣ・ＭＥＭＳなどを作製する微細加工設備を提供しており、文部科学省ナノテクノロジープラットフォームに参画し、大学・研究機関、企業などの基礎研究からプロトタイプ試作まで幅広く支援しています。

■半導体評価・解析環境の提供

信号発生器や波形分析器等の評価機器、X線透視装置やマイクロスコープ等の解析機器及び環境評価装置など、充実した評価・解析環境を提供しています。

半導体技術者育成講座（ひびきの半導体アカデミー）の開催

半導体技術者育成講座「ひびきの半導体アカデミー」では、半導体・エレクトロニクス関連企業の技術者などを対象として、社会や産業界に貢献するアプリケーションを創出するための知的基盤や技術力・研究開発力の向上等につながるプログラムを提供しています。

当アカデミーは、学研都市開設以来、これまでに累計約6,100名の方に受講いただき、数多くの半導体技術者を輩出しています。

●令和元年度／講座数　5講座、参加者数　95名

自動車技術拠点化の推進

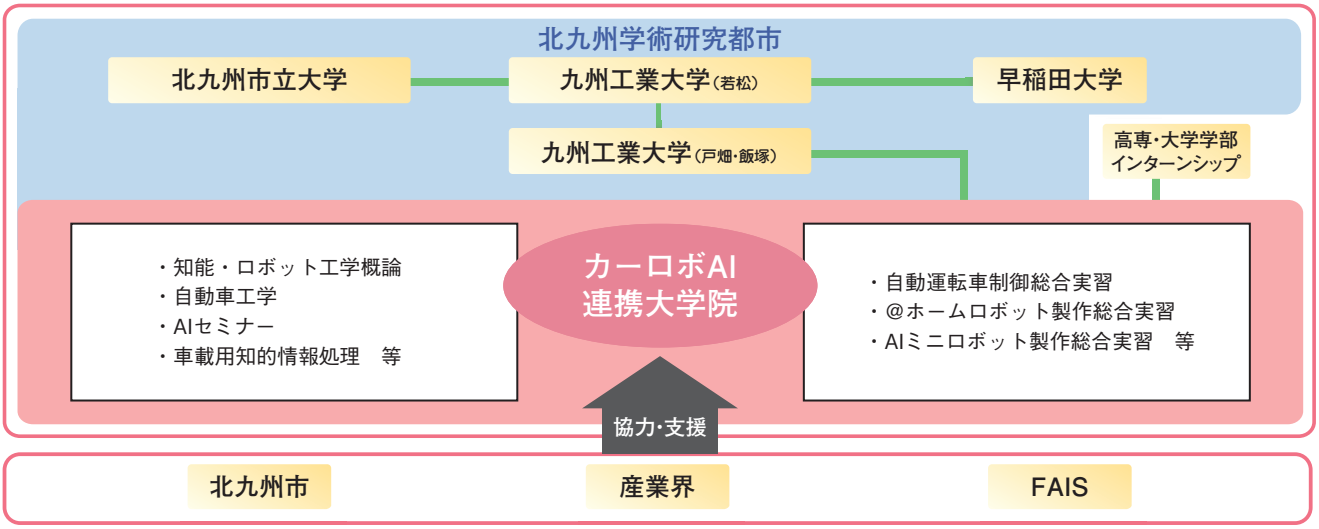
北九州地域における次世代自動車技術の拠点化を目指し、北九州学術研究都市における高度人材の育成を支援するとともに、産学連携による先端的研究開発を支援しています。

人材育成の推進

(1) 連携大学院

自動車とロボットの分野で次世代を担うリーダーとしての高度専門人材の育成を目的に、学研都市の3大学が運営する連携大学院の教育プログラムを支援します。

同大学院では、人工知能（AI）の研究開発を担う人材育成が急務であることを踏まえ、令和元年度からこれまでの「カーエレコース・カーロボコース・AIサブコース」を統合し、「カーロボAI連携大学院」に再編し、更なる教育内容の充実を進めます。



(2) 社会人のIoT・AIの教育プログラム（enPiT-everi）

代表校である北九州市立大学を含む5大学が2019年4月から社会人向けリカレント教育プログラムを開講しました。生産性向上や新事業展開に不可欠な、IoTに関連する新しい技術を体系的に修得できます。「スマートファクトリー」「インテリジェントカー」「スマートライフケア」「スマート農林畜産」「おもてなしIoT」など5つのコースを準備しています。

FAISは、地域産業の競争力強化を図る人工知能とロボット技術を駆使したIoT技術の社会実装を推進する実践的人材育成コースの開発・実施をサポートします。

プログラム提供校

代表校：北九州市立大学
連携校：九州工業大学、熊本大学、
宮崎大学、広島市立大学

スケジュール

平成30年度：一部の授業、実習開始
令和元年度：本格開始
4月～9月、10月～3月の2サイクル実施

地場企業支援

企業の生産性向上、ものづくり力の向上、企業の人材の育成の拡充とものづくり人材の地元定着化、自動車部品参入企業の拡大などを目指して、地場企業を支援しています。

(1) サプライヤー応援隊事業

①人材育成事業

企業の階層別に必要な能力を整理し、それぞれに必要なスキル・技能を学べるようなカリキュラムを編成しています。最新の自動車部品に搭載されている技術や開発動向、自社内で体系的な人材育成体制を整備できない中小サプライヤーの技術者向けの内容も意識して、取り組んでいます。

若手・中堅技術者育成カリキュラム	専門技術者育成カリキュラム	リーダー・幹部育成カリキュラム
内容 1. 監督者の役割 2. 生産活動の基本 3. 現状分析とムダの発見 4. 生産現場の改善　など	内容 電動化の進展等を考慮して、参入の可能性のある部品やモジュールについての勉強会 など	内容 1. 管理・監督者の役割について 2. 方針管理について 3. 人材育成について 4. 原価管理・生産管理について 5. 生産性向上について 6. グループ討議　など

・受講者のフォローアップ(アンケート、ヒアリング)
・困りごと、課題など調査

②現場派遣事業

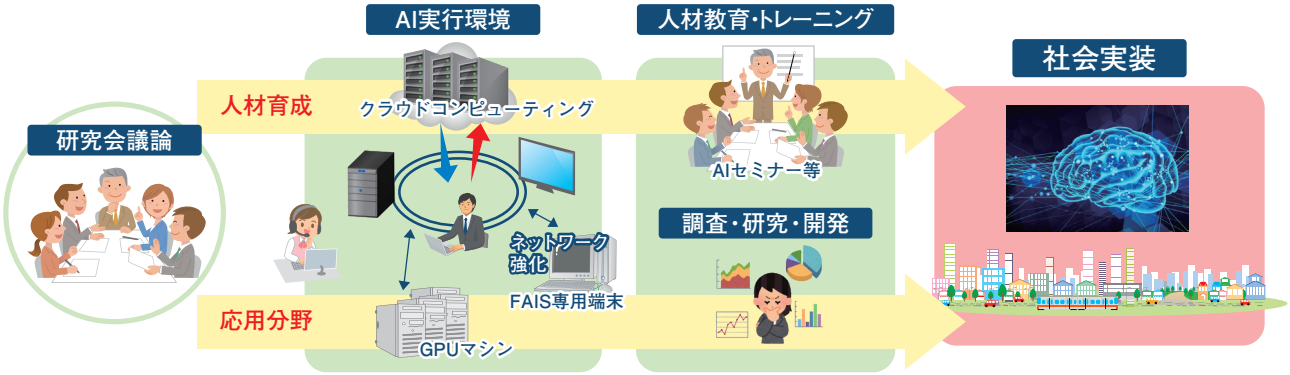
アドバイザーを派遣し、自動車メーカーのノウハウを活用した企業診断により、原価企画の徹底、標準化のための取組等、技術改善、経営改善をサポートします。

研究開発の推進

学研都市の研究シーズを活かした産学連携による研究開発をコーディネートし、次世代自動車技術やAIの社会実装に向けた研究開発機能の拠点化を目指します。

(1) AIの社会実装に向けた研究開発

企業ニーズと学研都市研究者の技術シーズのコーディネートを行い、AIを活用した電力需要の予測システムの確立・自動化や、難病の治療をサポートするシステムの実現など様々なテーマについて研究開発を進めています。また、人との親和性の高いシステム構築に貢献する基盤技術(スパースモデリング)や、実時間処理や低電力消費を実現するAI向けのハードウェアの研究開発を支援します。



ICTを活用した新規プロジェクトの創出

事業相談持込・ビジネスマッチング

・相談持込は活性化しており、以前相談したパートナーからのリピート依頼も増加しています。

新規事業	補助金申請支援	販路拡大支援	イベント関連	技術紹介	マッチング支援	合計
12件	3件	5件	7件	3件	24件	54件

新規プロジェクト創出支援事業

地域課題をビジネスの手法で解決するため、現在活動中の事業やコンソーシアムの立ち上げなどを支援します。

○新ビジネス創出支援補助金

ビジネス化することを見据えた調査、研究や新しいビジネスモデルを確立するための仕組みづくりを支援する「新ビジネス創出支援補助金」を公募し、令和元年度は2件の事業を採択しました。

【令和元年度採択一覧】

代表事業者	申請内容
三島光産㈱	オーダーメイド自動外観検査装置開発
㈱ハピクロ	食品製造業向けHACCP対応IoTシステム

平成30年度に採択した事業のうち、補助期間が令和元年度にまたがる事業に対し、事業者間の調整やマネジメントなどの支援を行いました。

代表事業者	申請内容
㈱ソルネット	スマートデバイスによる対人サービス業の生産性向上
㈱ハチたま	自社製品（猫IoTトイレ）を活用した新たなビジネスモデルの構築
㈱ハピクロ	保育園業務改善システム実証事業
計測検査㈱	クラウドAIでのコンクリート構造物の変状自動抽出サービス

生産性向上リーディングモデル創出事業

IoTによる中小企業の生産性向上をテーマに、北九州地域の中小企業（製造業含む）の業務の改善を促進し、売上増加、雇用拡大を通じた本市経済の活性化につなげるための活動を行っています。特に、各社の生産性向上に対する意識の向上を図るため、先導できるプロジェクト（リーディングプロジェクト）を共同研究方式で実施しています。

	会 社 名(業 種)	目　標
継続実施	日本鉄塔工業㈱（鋼構造物の製造）	工程進捗を把握し能力アップ。
	吉川精密㈱（プレス加工業）	工場稼働率を把握し計画の精度向上。
	㈱山本工作所（ドラム缶製造）	プレス機故障を予兆段階で把握し、停止防止。
	ミシマ･オーエー･システム㈱（ソフトウェア開発）	データセンタUPS内蓄電池の維持管理の省力化。
	溝上酒造㈱（醸造業）	定期的な温度管理を自動化し、省力化。
新規追加	㈱勝山工作所（住宅建材製造）	作業指示書がどの工程まで進んでいるか進捗を見える化。
	イワキ工業㈱（特殊ねじ製造）	現在手書きの作業日報を自動入力し効率化･原価把握。
	石川金属工業㈱（自動車部品製造）	蒸着メッキで使用する、治具台車の利用回数を自動カウントし、メンテ時期を把握。

また、FAIS内の各部門と連携して、北九州市内の事業者を訪問し、現場の課題とその要因を分析するとともに、その解決方法を提案してきました。手軽かつ安価に解決できる課題については、専門家を派遣し改善を図っています。

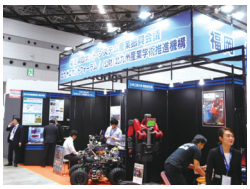
企業訪問回数：延べ75回・内改善提案数：15社・専門家派遣：7回

なお、令和元年度より、リーディング企業自らが発案者となり、IoTを実践する企業間の情報を共有し 、その成果を他の北九州中小企業に展開することを目的として、「IoT実践研究会」が発足しました。月に一度のペースで各社の現場訪問、課題の抽出と改善方法やノウハウの共有、さらに共通の課題解決に向けたツール開発を推進しています。

ロボット技術開発拠点化の推進

ロボット研究開発支援

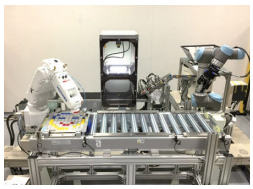
●ロボット関連プロジェクト支援
●市内発ロボット創生事業
●実証・事業化の支援
●ロボット産業マッチングフェアの開催
●国際ロボット展等への出展支援
●各種技術セミナーの開催


開発支援したロボットを国際ロボット展へ出展

※北九州ロボットフォーラムの事務局として新ロボット開発を推進

産業用ロボット導入支援

●ロボット導入による生産性向上支援
●ものづくり人材育成講座の開催
●ものづくり企業への現場派遣
●各種補助金の申請支援
●システムインテグレータとの連携推進
●ロボット導入につながる情報提供

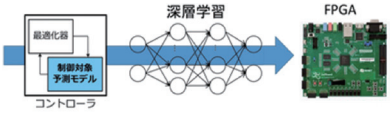

産業用ロボット導入支援センターの設備

※産業用ロボット導入支援センターの名称のもとに、ロボット導入に関わる取り組みを実施

【令和元年度の取り組み】

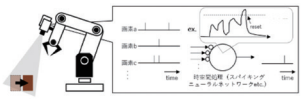
ロボット研究開発支援

安心･安全ロボットに向けた組込み脳型人工知能
FAIS研究助成事業(令和元年)



安全性と生産性の両立を目指す安全･安心ロボットの制御を目的に、脳型人工知能を導入したモデル予測制御をFPGA上で高速に実行する組込み脳型人工知能の開発を支援。

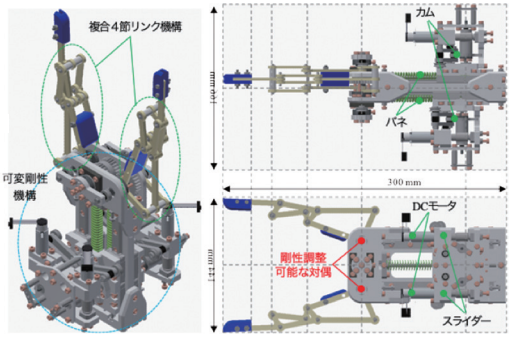
フレームレス型手先カメラによる産業用ロボットの高速画像制御技術
FAIS研究助成事業(令和元年)



物体の検出、奥行き推定、物体追従

教示レス型ロボットアームの導入促進を目的に、超高速レートかつ照明調整が不要なフレームレス型カメラをロボットの手先カメラとした新たな画像認識･制御技術の開発を支援。

柔軟物把持のための可変剛性ハンド
市内発ロボット創生事業(令和元年)



現在の産業用ロボットは、柔軟物を扱う食品や医療系企業などへの導入が進んでいない。
そこでロボット適用分野の拡大を目的に、事前に把持対象の詳細な情報や把持方法を入力することなく様々な形状や硬さの物体を把持できる可変剛性ハンドの開発を支援。

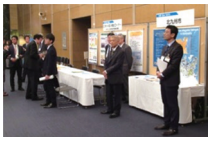
研究開発支援

産業用ロボット導入支援

産業用ロボット導入支援センターでは、市内企業の生産性向上・ものづくり力強化を目的にロボット導入を総合的に支援します。

●ロボット導入に関する企業訪問・技術相談
●人材育成（ロボット技術者およびシステムインテグレータ）
●ロボット導入に関する情報発信

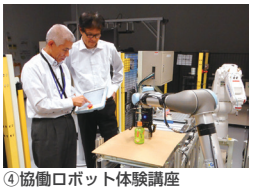
令和元年度の成果
●ロボット導入支援：10社の具体的ロボット導入案件を支援
●国プロ採択
・スマートものづくり応援隊事業
企業訪問／現場派遣：185件
生産性向上スクール：全14回 参加者数合計66名 右6講座
スマートものづくり応援機関全国フォーラムにてFAISの取組を紹介
・地域中核企業ローカルイノベーション支援事業
「九州SIer DAYS」の開催協力など


「九州SIer DAYS」風景

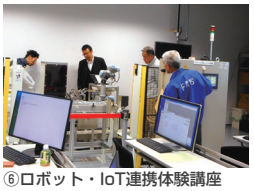
①産業用ロボット基礎講座

②ロボット活用講座

③ロボットビジョン講座


④協働ロボット体験講座

⑤ロボットシュミレータ活用講座


⑥ロボット・IoT連携体験講座

導入支援

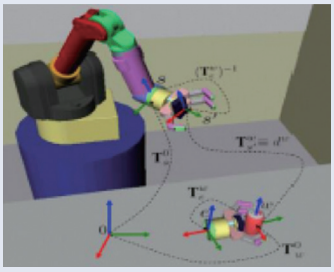
内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」事業

【計 画 名】革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト
【参画機関】北九州市、北九州産業学術推進機構、九州工業大学、㈱安川電機、他
【事業期間】平成30年～令和9年（うち、国補助期間5年間）

1.革新的ロボットテクノロジーによる「自律作業ロボット」の研究開発 【九州工業大学、㈱安川電機】

革新的な自立作業ロボットの開発をオープンイノベーションにより推進

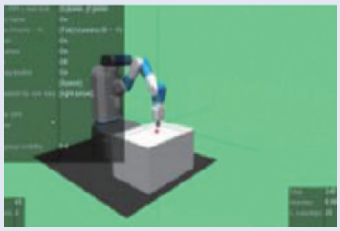
安心・安全



物体との衝突回避

パレット、ケースなどの衝突回避

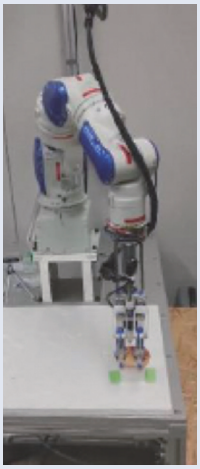
教示レス



パスプランニング、深層強化学習

人の模擬動作ハンドの追従と動作解析

人と同等作業



模擬食品の
ピック&プレイス

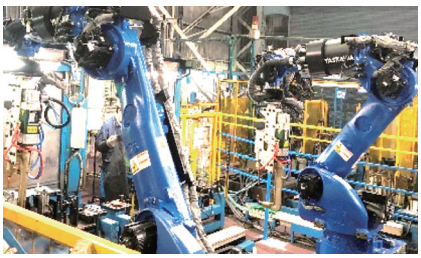
エンドエフェクタ

2.「キラリと光る地方大学づくり」に向けた大学改革 【九州工業大学】

- 新しい大学院連携「ロボットアントレプレナーコース（仮）」計画の確立
- ロボット研究に関する海外連携による研究教育拠点の形成
- 組織改革による、ロボット工学分野の研究教育集約

3.中小企業への産業用ロボット導入に向けた取組 【FAIS、北九州市】

- 産業用ロボット導入に向けた段階的支援の実施（ FS 事業、未活用領域実証事業）
- システムインテグレータ・ネットワークの強化
- ロボット活用人材の育成



産業用ロボットの導入支援

北九州SIerネットワーク強化事業

人材の育成・スクール実施

4.ロボット産業 高度外国人材活用支援 【北九州市】

海外（タイ王国等）の高度人材に対し、システムインテグレータ企業
でのインターンシップ等を実施
インターンシップ参加学生　7名

市長表敬

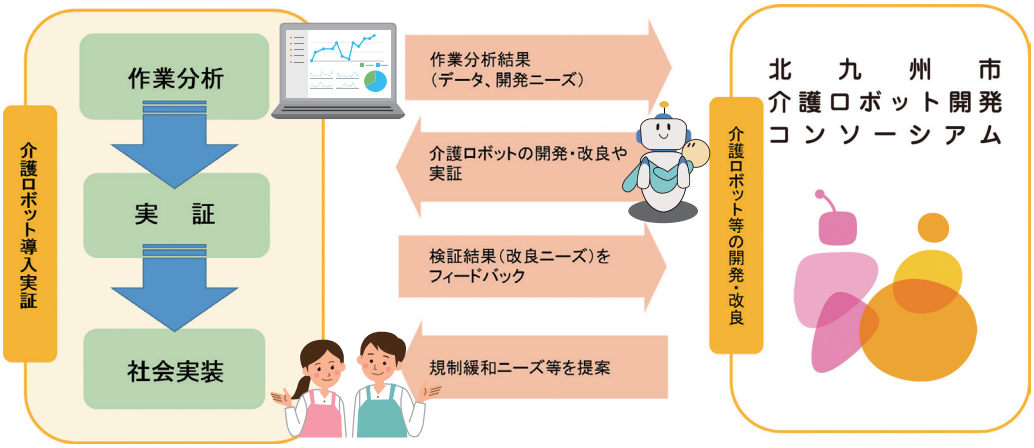
5.ロボット導入等の課題解決型インターンシップ 【北九州市】

市内理工系大学生がロボットの導入など企業課題解決を社員と協同で取り組む「課題解決型インターンシップ」などの取り組みを支援
（3～6ヶ月間に週1、2日企業で実習）

国家戦略特区の取り組み

介護ロボット等を活用した先進的介護の実証・実装

平成28年度に国家戦略特区「介護ロボット等による先進的介護の実証・実装」に指定された北九州市の委託を受け、介護ロボット等の導入による介護の質の向上や介護現場の生産性向上、介護従事者の負担軽減等を図る先進的介護の実現や、介護ロボット等の市場拡大などの実現に取り組んでいます。



介護ロボット等導入・実証事業

介護の質と安全性を保持しながら介護施設の生産性向上を図ることができる介護ロボット等の導入を進めるため、介護施設において介護ロボット等の導入、実証を行っています。

■介護ロボット等の導入と実証事業

作業観察

モニターによる見守り業務

平成28年度からの作業観察及び分析や介護ロボット等の導入・実証の成果を踏まえ、介護ロボット等の効果的な活用、効果的な人員配置、これらによる業務整理やQOL向上による、人とテクノロジーが融合した介護施設における新たな働き方（北九州モデル）の検証を行い、介護の質を落とすことなく介護従事者の負担を軽減し生産性を向上させるという狙い通りの成果を得ることができました。実証に当たっては、導入する介護ロボット等の選定や人材教育、導入後のフォローを行うとともに、検証の前後での作業観察についても支援しました。

介護ロボット等開発事業

北九州市が推進する先進的介護の実現に向けた取り組みの一環として、介護現場のニーズに即し、また介護従事者の身体的・精神的及び時間的負担の軽減に寄与し得る実用的な介護ロボット等の開発・改良を支援しています。

また、開発・改良された介護ロボット等の実証がタイムリーかつ迅速に実施できるよう、自前で倫理審査委員会を運営しています。

■北九州市介護ロボット開発コンソーシアム

展示会出展風景

現場ニーズに沿った実用的な技術開発と特区事業効果の最大化に貢献するため、介護従事者の負担軽減、介護現場の生産性向上等に資するロボット関連技術の開発に取り組む企業・団体を募集しています。会員への開発・改良支援として、介護現場における作業分析データの提供や安全性検証のサポート、倫理審査受審のサポート、開発費補助、実証フィールドの提供等を行っています。また、介護現場に会員企業の製品を紹介する会誌の発行や意見交換会を開催するなどニーズとシーズのマッチングにも取り組んでいます。また、介護ロボット等の普及啓発のため、展示会への出展や講演会等も行っています。

令和元年度は、倫理審査8件、開発補助2件、実証フィールド提供4件の支援を行いました。

●令和2年4月現在：会員数　42企業　5大学　4機関

中小企業・ベンチャー企業への総合的支援

中小企業の総合的支援

中小企業の経営支援

◎総合相談・休日創業相談の実施

中小企業診断士等の専門家を窓口に配置し、市内中小企業が抱える様々な相談に対応しています。また、平日に来訪が困難な創業予定者には、休日（土・日）相談を実施しています。

●令和元年度実績／総合相談件数859件、休日創業相談1件

◎巡回相談の実施

直接企業に出向いて様々な相談に応じる巡回相談員を配置し、訪問企業に対し支援メニューや支援担当部署等の紹介をしています。

●令和元年度実績／218社

◎専門家の派遣

経営革新等に積極的に取り組もうとする中小企業に対し、専門家（登録266名）を派遣して支援をしています。

●令和元年度実績／12件、88回

中小企業支援センター

チーフマネージャー
澤野 恵一郎（さわの けいいちろう）
地元金融機関出身
金融機関での経験を活かし、中小企業の資金繰りや融資相談、創業相談など、経営全般に関わる悩みを積極的にサポートする。

マネージャー
堺 武志（さかい たけし）
合同会社JEXPO代表
技術士（総合技術監理、建設、上下水道部門）である一方、ヨーロッパ等海外展開を支援する企業を自ら立ち上げた経験を生かす。

マネージャー
籾井 隆志（もみい たかし）
アルテックソリューションズ（株）
代表取締役
一級建築士の資格を持ち、グローバル・コンサルティング会社、製造業経営者及び技術者の経験を活かして、企業の持続的成長を支える仕組づくりなど、総合的な支援を行う。

マネージャー
則松 佳孝（のりまつ よしたか）
則松佳孝税理士事務所代表
特に福祉に関する業務を得意とし、社会福祉法人・NPO法人の会計業務にも精通。相談者に対し、専門用語を使わない理解しやすいアドバイスを心掛けている。

マネージャー
北嶋 知美（きたじま ともみ）
（株）ヒロインコンサルティング
代表取締役
中小企業診断士の資格を持ち、戦略策定・実行、経営改善、生産性向上、販路開拓等、中小企業の幅広い悩みに対応し課題解決をサポートする。

巡回相談・マッチング担当
村田 信敏（むらた のぶとし）
中小企業診断士
市内の製造業を対象に訪問し、各種相談に応じる。支援施策や担当部署を紹介。あわせて、製造業の受発注のマッチングを担当。

◎創業支援の実施

開業資金の調達や事業計画の策定など創業に関する相談や創業セミナーを開催することにより、創業希望者に対し開業までの支援を行っています。

●令和元年度実績／創業38社

◎マッチングコーディネートの実施

専門的知識や幅広い人脈を持つマッチング担当者が市内のものづくり中小企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援します。

●令和元年度実績／マッチング件数59件、成約件数4件

◎知的財産活用の実施

北九州地域の中小企業の新技術・新商品開発や新たな特許取得等を促進するため、知的財産権に関する相談・指導や特許活用等の支援を行っています。

●令和元年度実績／発明相談75件、
特許相談1,019件

※令和2年度より福岡県知財総合支援窓口は、INPITから株式会社東京リーガルマインドが受託し事業を実施しています。

窓口支援担当者
武内 洋介
（たけうち ようすけ）
住宅設備メーカー出身。
研究、開発、製造の経験を活かし特許・意匠・商標の出願サポートに留まらず、知的財産を通して企業の業績向上に貢献できるような支援を行う。

相談担当者
木内 進
（きうち すすむ）
県総合経済団体出身。
商工会・連合会の勤務経験と知財アドバイザーの経験を活かして、中小・小規模企業等が抱える知的財産に関する課題解決のため、相談者に寄り添った支援を行う。

財団運営

評議員名簿 （令和2年6月24日）

五十音順

氏名	役職名
梅本　和秀	北九州市副市長
尾辻　　豊	産業医科大学長
利島　康司	北九州商工会議所会頭
西原　達次	九州歯科大学長
平井　寿敏	産業技術総合研究所九州センター所長
本江　哲行	北九州工業高等専門学校長
見雪　和之	福岡県商工部新産業振興課長
山本　和男	（公社）九州機械工業振興会会長
柚須 亮太郎	九州電力㈱執行役員北九州支社長

役員名簿 （令和2年6月24日）

五十音順

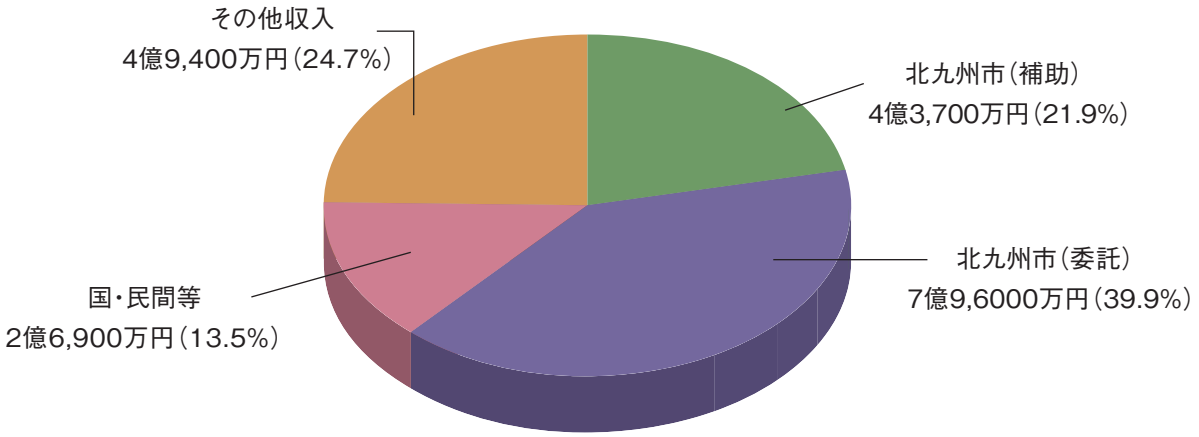
役員の種類	氏名	役職名
理 事 長	松永　守央	（公財）北九州産業学術推進機構
副理事長	植中　裕史	（公財）北九州産業学術推進機構
専務理事	窪田　秀樹	（公財）北九州産業学術推進機構
理　　事	池永　紳也	北九州市産業経済局企業立地・農林水産担当理事
〃	井上　文人	早稲田大学理事
〃	自見　榮祐	（一社）北九州中小企業団体連合会顧問
〃	松岡　信行	北九州情報サービス産業振興協会会長
〃	三谷　康範	九州工業大学副学長
〃	龍　　有二	北九州市立大学副学長
監　　事	桝尾 美栄子	北九州市会計室長
〃	吉野　浩実	㈱西日本シティ銀行常務執行役員北九州総本部長

令和元年度 決算資料

収入および支出内訳

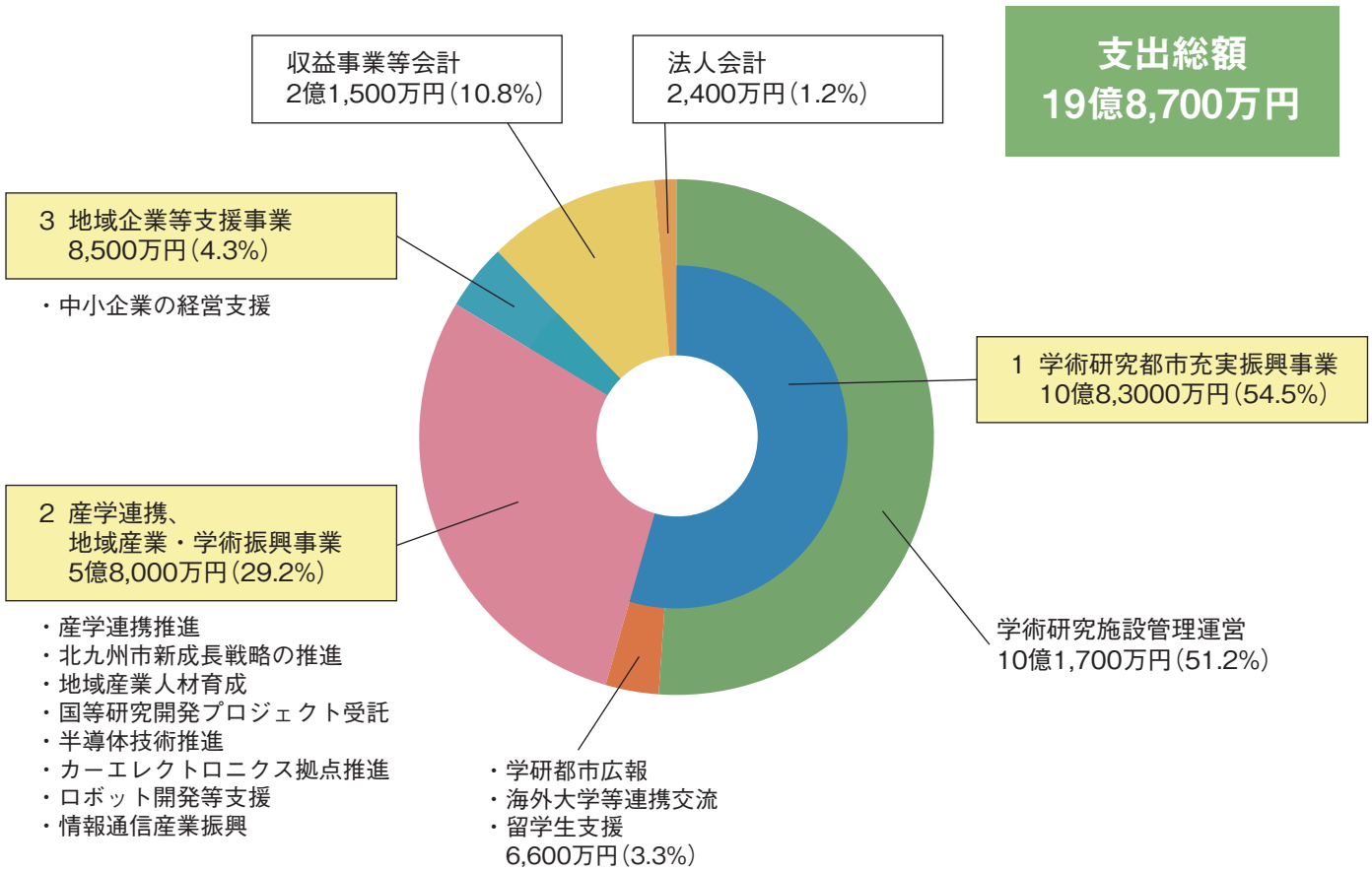
＜収入＞

収入総額
19億9,600万円



＜支出＞

支出総額
19億8,700万円



貸借対照表

令和2年3月31日現在

（公財）北九州産業学術推進機構　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	622,556,536	675,436,588	△ 52,880,052
未収金	291,618,682	199,591,872	92,026,810
前払金	20	0	20
流動資産合計	914,175,238	875,028,460	39,146,778
2．固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	285,468,464	199,680,807	85,787,657
普通預金	100,031,536	185,819,193	△ 85,787,657
基本財産合計	385,500,000	385,500,000	0
(2) 特定資産			
建物	651,286,868	669,954,326	△ 18,667,458
建物付属設備	63,011,690	67,656,444	△ 4,644,754
構築物	321,594	2,305,685	△ 1,984,091
機械設備	23,296,180	25,707,042	△ 2,410,862
什器備品	13,852,840	7,532,009	6,320,831
無形固定資産	172,247	216,224	△ 43,977
留学生支援事業積立資産	1,180,000	4,120,000	△ 2,940,000
学研都市充実強化積立資産	9,636,411	9,636,411	0
特定プロジェクト支援積立資産	21,335,760	24,235,760	△ 2,900,000
修繕積立資産	165,320,000	160,320,000	5,000,000
普通預金	150,320,000	110,320,000	40,000,000
投資有価証券	15,000,000	50,000,000	△ 35,000,000
ビル附属設備積立資産	102,209,190	77,209,190	25,000,000
特定資産合計	1,051,622,780	1,048,893,091	2,729,689
(3) その他固定資産			
構築物	67,183	140,473	△ 73,290
車両運搬具	1	1	0
機械設備	7,059,046	8,004,528	△ 945,482
什器備品	29,254,503	55,283,667	△ 26,029,164
無形固定資産	12,755,045	21,228,417	△ 8,473,372
電話加入権	73,000	73,000	0
保証金	20,000	20,000	0
リサイクル預託金	10,480	10,480	0
長期未収金	69,002	805,951	△ 736,949
貸倒引当金	0	△ 797,891	797,891
その他固定資産合計	49,308,260	84,768,626	△ 35,460,366
固定資産合計	1,486,431,040	1,519,161,717	△ 32,730,677
資産合計	2,400,606,278	2,394,190,177	6,416,101
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
未払金	310,025,443	278,295,244	31,730,199
前受金	4,000	120	3,880
預り金	10,405,835	12,319,293	△ 1,913,458
預り金(敷金)	77,288,820	77,288,820	0
流動負債合計	397,724,098	367,903,477	29,820,621
2．固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	397,724,098	367,903,477	29,820,621
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
北九州市補助金	388,295,521	408,895,222	△ 20,599,701
国庫補助金	316,836,256	338,409,833	△ 21,573,577
その他補助金	1	1	0
寄付金	201,180,000	204,120,000	△ 2,940,000
固定資産受贈益	0	1,662,500	△ 1,662,500
指定正味財産合計	906,311,778	953,087,556	△ 46,775,778
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(664,735,625)	(692,383,550)	(△ 27,647,925)
2．一般正味財産	1,096,570,402	1,073,199,144	23,371,258
(うち基本財産への充当額)	(185,500,000)	(185,500,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(386,887,155)	(356,509,541)	(30,377,614)
正味財産合計	2,002,882,180	2,026,286,700	△ 23,404,520
負債及び正味財産合計	2,400,606,278	2,394,190,177	6,416,101

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

（公財）北九州産業学術推進機構　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,588,549	1,637,502	△ 48,953
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	63,133	93,260	△ 30,127
③事業収益			
北九州市受託事業収益	796,608,905	738,765,592	57,843,313
国受託事業収益	17,617,874	19,039,838	△ 1,421,964
その他受託事業収益	100,749,260	108,383,798	△ 7,634,538
ＴＬＯライセンス事業収益	7,940,378	2,167,341	5,773,037
その他事業収益	238,916,983	243,044,911	△ 4,127,928
収益事業等会計収益	21,170,033	20,266,718	903,315
ビル事業収益	134,788,077	131,316,795	3,471,282
④受取補助金等			
受取北九州市補助金	427,787,519	486,842,870	△ 59,055,351
受取国庫補助金	131,995,629	55,308,823	76,686,806
受取補助金等振替額	51,702,688	58,290,452	△ 6,587,764
⑤受取寄付金			
受取寄付金	3,200,000	4,926,807	△ 1,726,807
受取寄付金振替額	2,940,000	3,360,000	△ 420,000
⑥固定資産受贈益			
固定資産受贈益振替額	1,662,500	167,500	1,495,000
⑦雑収益			
受取利息	0	1	△ 1
雑収益	153,101	938,090	△ 784,989
経常収益計	1,938,884,629	1,874,550,298	64,334,331
(2) 経常費用			
①事業費			
役員報酬	13,168,326	13,145,271	23,055
給与	240,213,456	225,134,193	15,079,263
福利厚生費	52,111,732	51,379,143	732,589
会議費	1,091,808	1,931,033	△ 839,225
渉外費	91,543	206,140	△ 114,597
旅費交通費	17,942,089	19,165,790	△ 1,223,701
通信運搬費	11,287,743	11,511,078	△ 223,335
減価償却費	72,843,955	74,217,310	△ 1,373,355
消耗品費	16,943,837	15,999,467	944,370
修繕費	98,184,751	105,990,305	△ 7,805,554
印刷製本費	2,317,053	2,658,808	△ 341,755
新聞図書費	4,120,844	3,913,097	207,747
燃料費	435,212	490,615	△ 55,403
光熱水費	231,712,684	236,206,196	△ 4,493,512
賃借料	96,737,275	97,543,199	△ 805,924
保険料	2,342,320	2,828,455	△ 486,135
諸謝金	45,248,315	52,866,332	△ 7,618,017
租税公課	34,180,393	29,629,310	4,551,083
委託費	623,436,647	614,946,935	8,489,712
支払負担金	90,267,132	109,779,642	△ 19,512,510
支払助成金	203,369,666	129,119,029	74,250,637
ライセンス料	1,085,808	802,672	283,136
支払手数料	10,379,333	6,781,818	3,597,515
奨学金	18,440,000	20,280,000	△ 1,840,000
雑費	52,063	363,683	△ 311,620
貸倒損失	8,060	0	8,060

科目	当年度	前年度	増減
②管理費			
役員報酬	4,389,442	4,381,757	7,685
給与	6,967,097	6,980,154	△ 13,057
福利厚生費	2,050,895	2,839,615	△ 788,720
会議費	63,516	41,701	21,815
渉外費	81,088	0	81,088
旅費交通費	1,395,900	1,557,780	△ 161,880
通信運搬費	102,250	196,702	△ 94,452
減価償却費	578,527	218,858	359,669
消耗品費	370,706	368,684	2,022
印刷製本費	137,240	196,452	△ 59,212
新聞図書費	340,293	331,860	8,433
燃料費	238,029	227,394	10,635
光熱水費	103,043	74,539	28,504
賃借料	1,667,010	2,302,820	△ 635,810
保険料	135,590	134,330	1,260
諸謝金	840,000	1,487,400	△ 647,400
租税公課	19,147	19,740	△ 593
委託費	1,988,887	1,482,345	506,542
支払負担金	704,490	801,390	△ 96,900
支払手数料	1,578,459	1,023,606	554,853
雑費	300	25,710	△ 25,410
経常費用計	1,911,763,954	1,851,582,358	60,181,596
当期経常増減額	27,120,675	22,967,940	4,152,735
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
①過年度損益修正益			
過年度損益修正益	0	805,951	△ 805,951
経常外収益計	0	805,951	△ 805,951
(2) 経常外費用			
①除却損失			
建物付属設備除却損	64,147	0	64,147
構築物除却損	1,522,920	0	1,522,920
機械設備除却損	3	249,163	△ 249,160
什器備品除却損	25,971	200,142	△ 174,171
無形固定資産除却損	698,376	8,665,864	△ 7,967,488
②貸倒引当金繰入額			
貸倒引当金繰入額	0	797,891	△ 797,891
経常外費用計	2,311,417	9,913,060	△ 7,601,643
当期経常外増減額	△ 2,311,417	△ 9,107,109	6,795,692
税引前当期一般正味財産増減額	24,809,258	13,860,831	10,948,427
法人税・住民税及び事業税	1,438,000	1,344,000	94,000
当期一般正味財産増減額	23,371,258	12,516,831	10,854,427
一般正味財産期首残高	1,073,199,144	488,767,106	584,432,038
合併による一般正味財産増加額	0	571,915,207	△ 571,915,207
一般正味財産期末残高	1,096,570,402	1,073,199,144	23,371,258
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取補助金等			
受取北九州市補助金	9,529,410	14,192,158	△ 4,662,748
基本財産受取利息	1,588,549	1,637,502	△ 48,953
一般正味財産への振替額	△ 57,893,737	△ 63,455,454	5,561,717
当期指定正味財産増減額	△ 46,775,778	△ 47,625,794	850,016
指定正味財産期首残高	953,087,556	289,301,014	663,786,542
合併による指定正味財産増加額	0	711,412,336	△ 711,412,336
指定正味財産期末残高	906,311,778	953,087,556	△ 46,775,778
Ⅲ　正味財産期末残高	2,002,882,180	2,026,286,700	△ 23,404,520

アクセスマップ

北九州学術研究都市

●事務局　総務企画部
●イノベーションセンター
　産学連携部
　事業推進担当
　自動車エレクトロニクスグループ
　情報産業振興グループ

●ロボット技術センター
　国家戦略特区介護担当

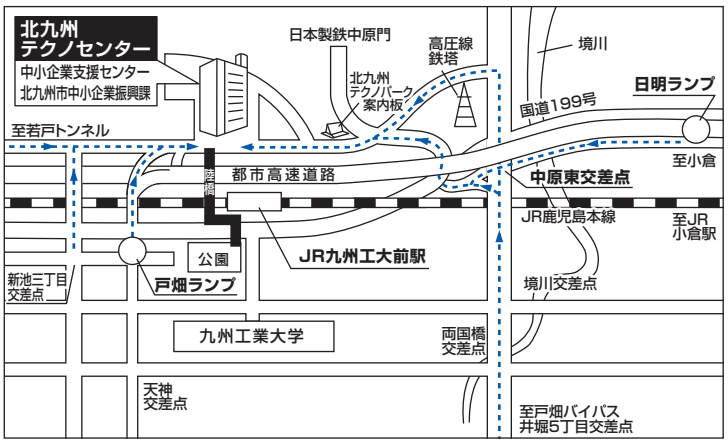
【公共交通機関の場合】
◎ＪＲ折尾駅西口バス停 ⟶ 市営バス ⟶ 学研都市ひびきの　※所要時間約15分
◎北九州空港バス停 ⟶ 西鉄バス ⟶ 学研都市ひびきの　※所要時間約80分

【車をご利用の場合】
◎北九州都市高速道路　黒崎出入口（黒崎・折尾出口下車）折尾方面へ ⟶ 学研都市ひびきの
※北九州都市高速道路黒崎出入口からの所要時間約20分

◎小倉都心 ⟶ 北九州都市高速道路 東田出入口 ⟶ 黒崎バイパス 皇后崎ランプ ⟶ 学研都市ひびきの
※所用時間小倉都心から約30分

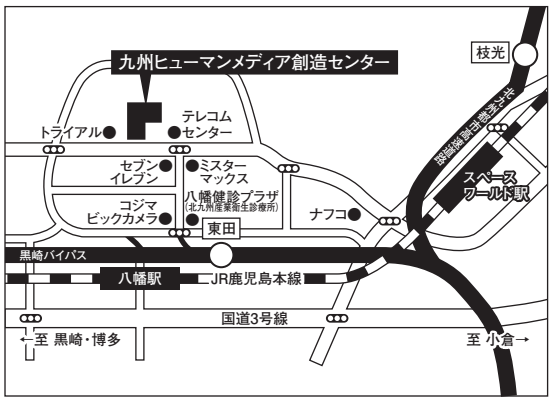
北九州テクノセンター

●中小企業支援センター



◎ＪＲ九州工大前駅下車北側へ徒歩３分
◎小倉方面から
　国道１９９号中原東交差点よりテクノパークへ入る
◎戸畑方面から
　北九州都市高速戸畑ランプへ向かってＪＲ線をまたぐ高架を上り、
　料金所直前で左折してテクノパークへ入る（一方通行）

九州ヒューマンメディア創造センター（FAIS東田オフィス）



◎ＪＲ八幡駅から徒歩5分
◎北九州都市高速道路：東田出入口ランプから車で3分

ご連絡・お問い合わせは
公益財団法人 北九州産業学術推進機構（FAIS）の各センターへ

【北九州学術研究都市ホームページ】 https://www.ksrp.or.jp/
【公益財団法人 北九州産業学術推進機構（FAIS）ホームページ】 https://www.ksrp.or.jp/fais/

北九州学術研究都市に関する全般的なお問い合わせ		E-mail / info@ksrp.or.jp
事務局　総務企画部	北九州学術研究都市内　産学連携センター1階 〒808-0135　北九州市若松区ひびきの2-1	TEL　093-695-3111 FAX　093-695-3010
大学の研究内容の活用、産学連携、その他研究開発プロジェクトに関するお問い合わせ		E-mail / iac@ksrp.or.jp
イノベーションセンター 産学連携部	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135　北九州市若松区ひびきの2-1	TEL　093-695-3006 FAX　093-695-3018
事業推進担当	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135　北九州市若松区ひびきの2-1	TEL　093-695-3007 FAX　093-695-3686
自動車分野における研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail / car@ksrp.or.jp
自動車エレクトロニクスグループ	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135　北九州市若松区ひびきの2-1	TEL　093-695-3685 FAX　093-695-3686
ICT分野における新ビジネス創出等に関するお問い合わせ		E-mail / iipc@ksrp.or.jp
情報産業振興グループ	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135　北九州市若松区ひびきの2-1	TEL　093-695-3077 FAX　093-695-3667
FAIS東田オフィス	九州ヒューマンメディア創造センター 〒805-0071　北九州市八幡東区東田1-5-7	TEL　093-663-2950
ロボット分野や国家戦略特区（介護ロボット開発支援）の研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		
ロボット技術センター	北九州学術研究都市内　技術開発交流センター1階 〒808-0138　北九州市若松区ひびきの北8-1	TEL　093-695-3085 FAX　093-695-3525 E-mail / robotics@ksrp.or.jp
国家戦略特区介護担当	北九州学術研究都市内　技術開発交流センター1階 〒808-0138　北九州市若松区ひびきの北8-1	TEL　093-695-3046 FAX　093-695-3525 E-mail / robocare@ksrp.or.jp
中小企業の経営、創業に関するお問い合わせ		E-mail / k_info@ksrp.or.jp
中小企業支援センター	北九州テクノセンター1階 〒804-0003　北九州市戸畑区中原新町2-1	TEL　093-873-1430 FAX　093-873-1450